

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
T9AA240084	教育学概論 [1AB]				阿 南 典 久			
科目区分		対象学科		対象学年	開講期間	単位数		
教職に関する専門科目		[24] 食物栄養科		1 年次	前期	2		
授業概要	○教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育や学校の営みがどのように変遷してきたのかを理解する。 ○現代の学校教育に関する制度的事項について基礎的な知識を身につけるとともに、それに関連する課題を考察する。また、学校と地域との連携や学校安全への対応に関して具体的な事例を取り上げ理解の深化を図る。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	幅広く教育の理念や歴史・思想、教育制度や地域との連携などの社会的事項について理解することができる。		○				
	2	与えられた課題に対して、自分なりの考えをまとめる。			○			
	3							
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	オリエンテーション	テーマを与えてレポートの提出（1時間）					
	2	教育の本質（1）・・・人間とは何か（ディスカッション）	授業の復習・小テスト準備（1時間）					
	3	教育の本質（2）・・・人間と教育（ディスカッション）	授業の復習・小テスト準備（1時間）					
	4	教育の本質（3）・・・学ぶこと教えること（ディスカッション）	授業の復習・小テスト準備及びテーマを与えてレポートの提出（2時間）					
	5	学校の登場と近代公教育制度の成立	授業の復習・小テスト準備（1時間）					
	6	日本における近代公教育制度の展開（1） ・・・明治維新と学校制度	授業の復習・小テスト準備（1時間）					
	7	日本における近代公教育制度の展開（2） ・・・戦後教育改革①（終戦直後）	授業の復習・小テスト準備（1時間）					
	8	日本における近代公教育制度の展開（3） ・・・戦後教育改革②（1950年代以降）	授業の復習・小テスト準備（1時間）					
	9	日本における近代公教育制度の展開（4） ・・・臨時教育審議会と教育改革	授業の復習・小テスト準備（1時間）					
	10	日本における近代公教育制度の展開（5） ・・・臨時教育審議会以降の教育改革	授業の復習・小テスト準備（1時間）					
	11	教育に関する思想	授業の復習・小テスト準備及びテーマを与えてレポートの提出（2時間）					
	12	現代公教育制度の原理および理念と教育関係法規	授業の復習・小テスト準備（1時間）					
	13	教育行政の理念と仕組み（地方教育行政の組織と機能）	授業の復習・小テスト準備（1時間）					
	14	学校、地域の連携による学校教育活動の意義および方法と開かれた学校づくり導入の経緯	授業の復習・小テスト準備（1時間）					
15	危機管理を含む学校安全の必要性和安全管理及び安全教育に関わる具体的取組	授業の復習（1時間）						
履修条件や関連する科目等	教職を履修する上で基本となる科目です。							
教科書	「やさしい教育原理」[第3版] 田嶋 一 他（著）有斐閣アルマ 2021年 1,900円+税 中学校学習指導要領「総則編」（文部科学省）							
参考書	随時指示する。							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1		60%	15%			10%	
	到達目標 2				15%			
	到達目標 3							
	到達目標 4							
	到達目標 5							

自由記述欄	期末試験（60%）、小テスト（15%）、レポート（15%）、授業への取り組み姿勢（10%）再試を実施する。
評価等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。
学習相談及び学習成果のフィードバック	(1) オフィスアワー・研究室の所在 火曜日9:00～10:30 木曜日9:00～10:30 24号館5階515研究室 (2) 学習成果のフィードバック ・小テストはmoodleで実施し、結果は即時に開示 ・期末試験に関する答えは研究室に保管しているため、事前に連絡のうえ内容を確認することができます。
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	・教職免許 中二種（家庭）・栄教二種 ・教職の基礎理論に関する科目 教職の理念及び教育に関する歴史及び思想 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
学生へのメッセージ	・これまで当たり前のように受けてきた教育。教育とは何なのか、なぜ勉強をしなければならないのか、学校はなぜできたのかなどについて考えてみることは、特に教員を目指す者にとっては、是非押さえておきたい基礎基本です。また、教職に対する目的意識の明確化にも効果的であると思います。教育現場での学校経営や学級経営、教育行政での実務の経験を活かし、具体的な事例を交えて授業をすすめていきます。 ・出席確認や小テスト等はmoodleで実施しますので、スマートフォン等を持参してください。 ・この授業は新型コロナウイルスの状況によっては、遠隔授業で実施する場合があります。
ナカゲ	PED-9-01-010

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T9AA240102	教職実践演習（栄養教諭）[2AB]		伊 藤 京 子					
科目区分		対象学科	対象学年	開講期間	単位数			
教職に関する専門科目		[23] 食物栄養科	2年次	後期	2			
授業概要	栄養教育実習で学んだこと、学びきれなかったことを整理し、グループ討議やワークショップ等の授業を通して栄養教諭としての資質の向上を目指す。また、教育者としての役割、自覚についての意識を高める。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
到達目標	1	栄養教諭としての基本的な知識・技能を身につけ、食に関する指導ができる。		○				
	2	学校の組織の一員として、栄養教諭が果たす役割を理解し、実践できる能力を身につける。				○		
	3							
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	教職実践演習（栄養教諭）への理解、シラバスの説明 1年次で習得した内容の再確認。	これまでの学習の振り返り（0.5h） 食育推進体制の具体例の調べ学習（0.5h）					
	2	人権・部落差別解消学習	課題レポートの作成（1h）					
	3	校内における食育推進体制について ・体制整備の構築 ・推進体制の在り方	個別指導のについてのテキストの部分を熟読（1h）					
	4	食に関する個別指導の演習（グループワーク）	授業の反省（0.5h） 次回の予習（1h）					
	5	市町村における栄養教諭の果たす役割について（グループワーク）	授業の反省（0.5h） 次回の予習（1h）					
	6	各教科における食に関する指導（家庭科・技術家庭科 体育・保健体育科） ・TTによる授業プラン作成	学習指導要領の復習とプラン作成（1h）					
	7	各教科における食に関する指導（学級活動 総合的な学習の時間） ・TTによる授業プラン作成	学習指導要領の復習とプラン作成（1h）					
	8	学校現場の見学・調査（フィールド・ワーク 1）	フィールドワークのレポート作成（1h）					
	9	学校現場の見学・調査（フィールド・ワーク 2）	フィールドワークのレポート作成（1h）					
	10	学校現場の見学・調査（フィールド・ワーク 3）	フィールドワークのレポート作成（1h）					
	11	模擬授業 事前研究	細案や教材の準備（2h）					
	12	模擬授業演習	模擬授業の評価及び反省とまとめ（1h）					
	13	模擬授業 事後研究	模擬授業の評価及び反省とまとめ（1h）					
	14	課題レポート作成	発表の準備（2h）					
15	後期のまとめと課題レポート発表	授業の振り返りとまとめ（1h）						
履修条件や関連する科目等	教育実習が終了して教師の資質向上のための教科の意味を理解し、個人の資質向上に努力する。 栄養教育実習・学校栄養指導論・栄養教諭事前事後指導							
教科書	栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート（学建書院）2021年 2,750円（税込）							
参考資料	食育に関する図書全般（研究室設置） 各教科の学習指導要領 指導案の書き方（研究室設置）							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1				20%	20%	20%	
	到達目標 2				20%	10%	10%	
	到達目標 3							
	到達目標 4							
到達目標 5								

（自由記述欄） 評価方法	グループ活動や演習が主となる科目なので、積極性、意欲等の取組態度を評価します。また模擬授業については各教科の目標、食育の視点、児童生徒が主体的に学べる内容になっているかを重視した評価をします。 校外実習や課題の内容は授業時間内に伝えます。
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。
学習相対及び学習成果の フィードバック	課題作成等については個別相談に応じます。（メールでの対応も可） 課題の成果発表や返却は授業内で行います。 * 研究室 2号館2階 222
法令等に定められた授業 科目に含める必要事項	栄養教諭2種免許：教職実践演習（必修）
学生へのメッセージ その他	小中学校で、栄養教諭という立場で学校の組織の一員として勤務していたことを元に、現場の声を反映できるような授業を行います。履修者は、栄養教諭としてどう動くか、どう他者と連携をしていくか等を考えながら演習を行ってください。 教育実習で習得したことや反点を生かし、さらにつけたい知識や技能について取得を目指してください。 この授業科目は、状況によって対面で実施できない場合は遠隔授業で実施する場合があります。
ナカソグ	PTS-9-02-010

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AA240042	食品衛生学 [2AB]		岡 本 昭					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
食品と衛生	[23] 食物栄養科		2年次	前期	2			
授業概要	<p>わが国では、少子高齢化、女性の社会進出等で、外食、中食など食のニーズが大きく変化、多様化しています。フードモデル、フードビジネスが発展、変化する中で、食の安全・安心や健全な食生活を実践することはますます重要性を増しています。食品産業の加工や流通技術が発展し、地域の食材を鮮度の良い状態で食することができる一方、様々な食料が世界中から輸入されています。一方、これまでの食中毒や食品添加物、食品環境を取りまく化学物質の問題のほか、BSEの出現やノロウイルス食中毒、鳥インフルエンザ、遺伝子組み換え食品などこれまでになかった新しい食の安全に関わる問題が発生しています。</p> <p>この授業では細菌等や食品の変質などを原因とした食中毒と食品添加物等化学物質に関すること、HACCPや食品衛生の管理や施策など、栄養士として有するべき食品衛生に対する専門的な知識と食の安全に関する基本的な態度について学習します。</p>							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	食生活の危害要因について、衛生面から理解する。		○				
	2	安全、安心な食生活を保持するための専門知識を修得する。			○			
	3	食品衛生に関する基本用語を理解し、食中毒の発生原因とその対策について説明できるようになる。						○
	4							
5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	食品衛生学の概論、食品衛生行政と関連法規	予習：教科書（第1章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	2	食品の変質① 食品中の微生物（微生物の種類、増殖条件）、微生物の由来	予習：教科書（第2章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	3	食品の変質② 腐敗の判定、化学的変質	予習：教科書（第2章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	4	食品の変質③ 食品の腐敗、変敗の防止法	予習：教科書（第2章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	5	食中毒 定義と分類、発生状況、細菌性食中毒総論	予習：教科書（第3章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	6	細菌性食中毒各論① サルモネラ・腸炎ビブリオ・ボツリヌス食中毒など	予習：教科書（第3章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	7	細菌性食中毒各論② その他の細菌性食中毒、ノロウイルスなど	予習：教科書（第3章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	8	自然毒による食中毒 動物性自然毒・植物性自然毒	予習：教科書（第5章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	9	経口感染症と寄生虫症、衛生動物	予習：教科書（第4章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	10	食品中の汚染・有害物質 化学物質、有害金属	予習：教科書（第5章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	11	食品添加物概要 食品添加物の定義、安全性評価	予習：教科書（第1章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	12	食品添加物各論 食品添加物の種類と用途など	予習：教科書（第6章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	13	食品衛生管理 家庭など一般的な衛生管理、HACCP、ISO	予習：教科書（第7章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
	14	食品の安全性問題 遺伝子組み換え食品、放射線と食品、農薬と食品、リスク分析と国際化	予習：教科書（第8章）中の重要な言葉について調べておく。（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）					
15	まとめ 食品衛生法・食品安全基本法・食品の規格基準および表示基準	予習：これまで配布した資料を読んでおく（1時間） 復習：配布資料の内容を整理する。（1時間）						

履修条件や関連する科目等	食品と衛生の観点から、食品学を学んだうえで2年前期に食品加工学並びに食品衛生学実験を通して食品衛生学の理論を学びます。さらに2年後期では食の安全と鑑別について学び、食品加工実習を行います。							
教科書	はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ11 食品衛生学 食の安全性を理解するために 西瀬弘・檜垣俊介・和島孝弘 著 化学同人 2022年 2,000円（税別）							
参考資料	プリントを授業時に配布します。プリントをきちんと整理しておくこと。 (1) 食をめぐる本当の話 阿部尚樹 上原真理子 中沢彰吾 講談社現代新書 2015年 760円（税別） (2) 食品衛生の歴史と科学 細貝祐太郎 編集 中央法規出版 2013年 2,400円（税別）							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1		20%	5%			5%	
	到達目標2		25%	5%			5%	
	到達目標3		25%	5%			5%	
	到達目標4							
	到達目標5							
評価方法	期末試験、小テスト、発表や取り組み姿勢で評価する。 再試験を実施する。 学修達成度の判定基準に学修達成度の判定基準に基づき試験等の点数に応じて、A A (90-100点), A (80-89点), B (70-79点), C (60-69点), F (59点以下：不合格) の5段階で成績を評価する。							
評価基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	(1) 学習相談 研究室：本館405号 オフィスアワー：月曜日13:00～14:30 金曜日13:00～14:30 学習相談には、オフィスアワーおよび昼休み、放課後の時間に対応します。わからないところは質問に来てください。E-Mail等を利用した質問も受け付けます。 (2) 学習成果等のフィードバック 小テストは授業中に返却します。							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	(1) 栄養士免許証取得資格：食品と衛生（必修） (2) フードスペシャリスト受験資格：食品の安全性に関する科目（必修）							
学生へのメッセージ	食品衛生学は、栄養士にとって、食を提供することも、高齢者、病者、その他職場の人々などに「食の安全・安心」を提供する基本となります。公的機関の研究者として、食品衛生に携わった経験をいかし、授業では食品衛生の基本と現場での応用事例について学びます。 社会的状況に応じて、Moodleを利用したオンデマンドで授業を行います。							
ナラゲ	FHY-2-01-010							

科目コード	科 目 名						担 当 教 員 名			
T5AA240056	栄養カウンセリング論 [2AB]						浜 野 香 奈			
科目区分			対象学科			対象学年	開講期間	単位数		
栄養の指導			[23] 食物栄養科			2年次	後期	2		
授業概要	国民の健康増進を目的とした食行動の変容のためには、行動科学の理解とカウンセリングの活用が必須である。この授業は、栄養教育論・栄養教育論実習で習得した知識や技術をもとに、カウンセリングに関する基礎概念や理論、各ライフステージの食行動の特徴を理解し、栄養カウンセリングを取り入れた栄養教育を実践するための基本的態度と技法を学ぶ。									
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力		
	1	栄養カウンセリングに関する基礎知識や行動科学理論を説明できる。		○	○					
	2	栄養教育のためのカウンセリング技法を習得し活用できる。				○				
	3									
	4									
	5									
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間							
	1	・オリエンテーション（授業の進め方とシラバスの説明、評価） ・カウンセリングの概要、カウンセリングにおける態度と倫理	予習：テキスト「栄養カウンセリング論」p2-9を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	2	カウンセリングの基本的技法	予習：テキスト「栄養カウンセリング論」p10-16を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	3	行動変容の基本的概念	予習：テキスト「栄養カウンセリング論」p17-22を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	4	行動変容に必要な技法について	予習：テキスト「栄養カウンセリング論」p23-32を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	5	行動変容に導くためのテクニックⅠ：ヘルス・ビリーフモデルとは	予習：テキスト「栄養教育論」p15-18を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	6	行動変容に導くためのテクニックⅡ：行動変容段階モデルについて	予習：テキスト「栄養教育論」p18-19を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	7	行動変容に導くためのテクニックⅢ：社会的学習理論、社会的認知理論	予習：テキスト「栄養教育論」p20を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	8	行動変容に導くためのテクニックⅣ：ソーシャルネットワーク 他 授業2-8までの振り返り（小テストの実施）	予習：テキスト「栄養教育論」p20を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	9	ライフステージ・ライフスタイル別栄養カウンセリングの特徴	予習：テキスト「栄養カウンセリング論」p57-76を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	10	臨床の場における栄養カウンセリングの特徴	予習：テキスト「栄養カウンセリング論」p77-94を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	11	グループカウンセリングを用いた栄養カウンセリングの特徴	予習：テキスト「栄養カウンセリング論」p96-106を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	12	電話や電子メールによる支援 授業9-12の振り返り（小テストの実施）	予習：テキスト「栄養カウンセリング論」p107-119を読む（1h） 復習：配布資料の整理と復習（1h）							
	13	食事療法における栄養カウンセリングの応用（グループワーク）	予習：これまでの配布資料を見直す（1h） 復習：グループワークのまとめ							
	14	運動療法における栄養カウンセリングの応用（グループワーク）	予習：これまでの配布資料を見直す（1h） 復習：グループワークのまとめ							
15	栄養カウンセリング論のまとめ	期末テスト対策								
履修条件や関連する科目等	本科目は、食生活論、栄養教育論、栄養教育論実習で学習した内容を理解したうえで履修することが望ましく、心理学、栄養カウンセリング実習へと発展していく科目である。									

（テキスト）	栄養カウンセリング論 赤松利恵、永井成美著 化学同人 2015年（定価 1,800円+税）						
（参考文献）	はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ⑧ 栄養教育論 健康と食を支えるために 化学同人（定価 2,100円+税）						
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1	40%	10%			10%	
	到達目標2	20%	10%		10%		
	到達目標3						
	到達目標4						
	到達目標5						
（自由記述欄）評価方法	期末試験（60%）、小テスト（20%）、レポートなどの提出物（10%）、授業の取り組み姿勢（10%）で評価し、60点以上を合格とする。再試験を実施する。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	(1) オフィスアワー・研究室の所在 月～木曜日：16:10～17:00 ・研究室：23号館1階101研究室 (2) 学習成果のフィードバック 答案、レポートの返却方法については講義内で指示します。						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	栄養士資格：栄養の指導（必修科目）						
学生へのメッセージ	<p><メッセージ> 栄養士として栄養教育を展開する技法を習得するための科目です。学んだ知識を栄養カウンセリング実習につなげていけるようにしましょう。人を対象とするためには、まず自分自身を知ることが大切であると考えます。現在の自分を外面や内面から観察し、また他の人とコミュニケーションをとるよう心がけましょう。教育媒体やレポートの作成ではパソコンを活用します（ICT活用）。</p> <p>この授業は状況によって、遠隔授業を実施する場合があります。</p> <p><実務家教員としてのメッセージ> クライアントとカウンセラーが信頼関係を結ぶことを「ラポールの形成」といいます。人との信頼関係の構築は容易なことではありませんが、あなたの役に立ちたいと心から思うことが第一歩だと考えます。コミュニケーションの第一歩は挨拶です。毎日、大きな声ではっきりした言葉での挨拶を心がけてください。</p>						
ナラビア	TNE-1-03-010						

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AA240065	調理学 [1AB]		浜 野 香 奈					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
給食の運営	[24] 食物栄養科		1年次	後期	2			
授業概要	食材に何らかの調理操作を加えて「食べ物」とする行為は、人間だけの知恵と技術です。調理操作を行うことは嗜好性だけでなく、安全性や栄養性を高めることにつながります。食材がもつ特性について知り、調理操作を行うことで、食材そのものや栄養素におこる変化を理解しましょう。また少量調理と大量調理の違いは、給食に従事する栄養士として有するべき知識です。この科目では調理の意義や目的を踏まえた食事設計から供食にいたる一連の流れについて、科学的な知見で学修します。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	調理の目的と意義を理解し、食べ物の特性をふまえた調理操作の理論が説明できるようになる。		○				
	2	調理による食品の組成・物性と栄養成分の変化が説明できるようになる。			○			
	3	調理の役割を理解し、食事設計や献立作成ができるようになる。				○		
	4							
5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	・オリエンテーション（授業の目的や進め方、評価方法） ・調理学の基礎（調理の意義と目的、食料・環境問題など）	予習：テキスト第1章の1.～2.を読む。(1h) 復習：レポート「調理の役割と意義について」(1h)					
	2	・食嗜好と健康 ・嗜好性の主観的評価・客観的評価	予習：テキスト第1章の3.～4.を読む。(1h) 復習：レポート「おいしさに関する要因について」(1h)					
	3	調理の基本Ⅰ：非加熱調理	予習：テキスト第2章の1.～2.を読む。(1h) 復習：チェックしてみよう（p52-53）を復習する（1h）					
	4	調理の基本Ⅱ：加熱調理	予習：テキスト第2章の3.～4.を読む。(1h) 復習：チェックしてみよう（p52-53）を復習する（1h）					
	5	植物性食品の調理科学と栄養Ⅰ：米、小麦・雑穀	予習：テキスト第3章の1.～2.を読む。(1h) 復習：チェックしてみよう（p92）を復習する（1h）					
	6	植物性食品の調理科学と栄養Ⅱ：いも類、豆類、種実類	予習：テキスト第3章の3.～5.を読む。(1h) 復習：チェックしてみよう（p92）を復習する（1h）					
	7	・植物性食品の調理科学と栄養Ⅲ：野菜、果物、きのこ類 ・植物性食品の小テスト	予習：テキスト第3章の6.～9.を読む。(1h) 復習：チェックしてみよう（p92）を復習する（1h）					
	8	第1～7回授業の振り返り（中間テスト）	予習：これまでの授業内容の復習（1h） 復習：テスト内容の振り返り（1h）					
	9	動物性食品の調理科学と栄養Ⅰ：食肉類	予習：テキスト第4章の1.を読む。(1h) 復習：チェックしてみよう（p119）を復習する（1h）					
	10	動物性食品の調理科学と栄養Ⅱ：魚介類	予習：テキスト第4章の2.を読む。(1h) 復習：チェックしてみよう（p119）を復習する（1h）					
	11	・動物性食品の調理科学と栄養Ⅲ：卵類、牛乳・乳製品 ・動物性食品の小テスト	予習：テキスト第4章の3.～4.を読む。(1h) 復習：チェックしてみよう（p119）を復習する（1h）					
	12	成分抽出素材の調理科学：ゲル化材料、油脂類	予習：テキスト第5章を読む。(1h) 復習：チェックしてみよう（p138）を復習する（1h）					
	13	・調味料、香辛料の調理科学 ・ゲル化材料、油脂、調味料類の小テスト	予習：テキスト第6章を読む。(1h) 復習：チェックしてみよう（p148）を復習する（1h）					
	14	・食事計画と献立作成 ・供食、食卓構成、食事環境	予習：テキスト第7章を読む。(1h) 復習：チェックしてみよう（p175）を復習する（1h）					
15	まとめ 練習問題の解説など	予習：授業の振り返り。(1h) 復習：期末テスト学習。						

履修条件や関する科目等	1年生前期で学ぶ「基礎調理」、後期で学ぶ「調理実習Ⅰ」の実技の修得において、この科目では調理に関する知識と理論を学修します。							
教科書	「イラスト調理科学」中嶋 加代子 他著 東京教学社（税込み 2,400円+税）							
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・新調理研究会編「基礎から学ぶ調理実習」2019年 オーム社 2,970円（税込） ・おいしい調理のデザイン研究会編「おいしく作り、味わうためのクッキング」2,420円（税込） 							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1		20%	10%				
	到達目標2		20%	10%				
	到達目標3		20%		10%		10%	
	到達目標4							
	到達目標5							
評価方法	期末試験：60%、小テスト：20%、課題やレポートの提出：10%、授業の取り組み姿勢：10%で評価し、60点以上を合格とする。再試験を実施する。							
基準等	学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画確認し、予習を行って授業に臨んでください。 ・授業内容の振り返りとして練習問題を行います。 授業や課題に関する質問はオフィスアワーでも対応します。月～金 16:10～17:00（23号館1階101号室）							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士免許取得資格：給食の運営（必修） ・フードスペシャリスト受験資格：調理学または調理科学に関する科目（必修） 							
学生へのメッセージ	<メッセージ> 調理操作は科学と理論に基づいています。知識を修得し、調理技術に結び付けていきましょう。 なおこの授業科目は、状況によって遠隔で実施される可能性があります。 <実務家教員としてのメッセージ> 栄養士として携わる集団給食の大量調理は、家庭で行われる小規模（少量）調理には類似点があれば相違点もあります。そのことを理解するための基礎となる科目です。調理の理論と実技の修得にむけてしっかりと学んでいきましょう。							
ナバング	EAH-1-02-010							

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名				
T5AA240050	応用栄養学 [2AB]		浜 野 香 奈				
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数		
栄養と健康	[23] 食物栄養科		2年次	前期	2		
授業概要	日本は世界でもトップクラスの長寿国です。健康寿命を延ばし、健やかな高齢期を迎えるためには、幼少期からの適切な生活習慣が大切であり、なかでも食生活は健康の維持増進に深く関与しています。生命の誕生から幼少期、学童期、思春期、成人期を経て、高齢期に至るまでのそれぞれのライフステージにおける、身体の特徴に応じた栄養食事管理の実践について修得します。その他に運動やスポーツ、特殊な環境下における栄養との関りについて学びます。						
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力
	1	日本人の食事摂取基準に基づいた栄養摂取基準や栄養素の指標が説明できる。			○		
	2	ライフステージごとの身体的な特徴を理解し、適正な栄養食事管理ができる。		○			
	3	運動やスポーツ時、また特殊環境における栄養との関りについて説明ができる。					○
	4						
5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間				
	1	オリエンテーション（授業の目的や進め方、評価方法など） 応用栄養学の概念 栄養ケア・マネジメントの理解	予習：テキスト第1章p1～11を読む（1h） 復習：テキスト第1章の練習問題を解く（p11～12）（1h）				
	2	日本人の食事摂取基準の基礎的理解	予習：テキスト第2章p13～26を読む（1h） 復習：テキスト第2章の練習問題を解く（p27）（1h）				
	3	妊娠期的特徴と栄養について	予習：テキスト第3章p29～41を読む（1h） 復習：テキスト第3章の練習問題を解く（p42～43）（1h）				
	4	授乳期的特徴と栄養について	予習：テキスト第4章p45～53を読む（1h） 復習：テキスト第4章の練習問題を解く（p54）（1h）				
	5	乳児期的特徴と栄養について	予習：テキスト第5章p55～70を読む（1h） 復習：テキスト第5章の練習問題を解く（p71）（1h）				
	6	幼児期的特徴と栄養について	予習：テキスト第6章p73～82を読む（1h） 復習：テキスト第6章の練習問題を解く（p83）（1h）				
	7	学童期・思春期的特徴と栄養について	予習：テキスト第7～8章p85～106を読む（1h） 復習：テキスト第7～8章の練習問題を解く（p96～97、107～108）（1h）				
	8	妊娠期から思春期までの振り返り（中間テストの実施）	予習：第1～7回授業の復習（1h） 復習：中間テスト問題の復習（1h）				
	9	成人期・更年期の特徴と栄養について	予習：テキスト第9章p109～127を読む（1h） 復習：テキスト第9章の練習問題を解く（p128）（1h）				
	10	高齢期的特徴と栄養について	予習：テキスト第10章p129～144を読む（1h） 復習：テキスト第10章の練習問題を解く（p145）（1h）				
	11	運動・スポーツ時の身体的変化と栄養について	予習：テキスト第11章p147～165を読む（1h） 復習：テキスト第11章の練習問題を解く（p166）（1h）				
	12	環境と栄養について	予習：テキスト第12章p167～174を読む（1h） 復習：テキスト第12章の練習問題を解く（p175）（1h）				
	13	授業の振り返り：各項目ごとのまとめ（グループワーク）	予習：各ライフステージの特徴についてまとめる（1h） 復習：ライフステージの特徴と栄養についてのレポート作成（1h）				
	14	ライフステージ別の特徴と栄養について（プレゼンテーション）	予習：プレゼンの練習（1h） 復習：プレゼンの評価と見直し（1h）				
15	「応用栄養学」の振り返り 栄養士実力認定試験過去問題より	予習：栄養士実力認定試験の過去問題を解く（1h） 復習：〃（1h）					

履修条件や関連する科目等	・栄養士免許必修科目 ・人体の構造と機能、栄養と健康							
テキスト	・はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ⑥「応用栄養学」～適切な食生活を実践するための基礎～ 化学同人 奥田あかり・上山恵子 他著（2,200円+税） ・日本人の食事摂取基準2020年版 第一出版 菱田明、佐々木敏監修（2,800円+税）							
参考資料	2023年度栄養士実力認定試験過去問題集（一社）全国栄養士養成施設協会 編							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1		20%	10%				
	到達目標 2		30%	10%		10%		
	到達目標 3		10%		10%			
	到達目標 4							
評価方法	期末試験：60%、小テスト：20%、課題・レポート：10%、発表：10%で評価し60点以上を合格とする。再試験を実施する。							
	基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	・授業計画に学修内容とテキストの範囲を示しています。予習を行って授業に臨んで下さい。 ・練習問題をよく理解し、復習を行ってください。 課題や質問にはオフィスアワーで対応します。月～金：16:10～17:00。（研究室23号館1階101号室）							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	栄養士免許取得資格：栄養と健康（必修科目）							
学生へのメッセージ	<p><メッセージ></p> <p>人は毎日食事をすることで必要なエネルギーや栄養素を体にとり入れています。食生活のあり方や内容が時代の流れとともに多様化していくなかで、栄養士は対象者の状態を把握し、適切な栄養食事管理を行うことが求められます。ライフステージごとの身体的特徴について学び、幅広い年齢層の対象者に応用できる栄養学の知識を身につけてください。</p> <p>この授業は状況によって遠隔授業で実施される可能性があります。</p> <p><実務家教員としてのメッセージ></p> <p>皆さんが修得する栄養や食事の知識は、栄養士として接する対象者の適切な栄養食事管理に欠かせないものであるとともに、皆さん自身や周囲の人に対する健康管理にも役立つ力となるでしょう。</p>							
ナパ/ナグ	APN-2-01-010							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名					
T5AA240057	栄養カウンセリング実習 [2A]				浜 野 香 奈					
科目区分		対象学科		対象学年	開講期間	単位数				
栄養の指導		[23] 食物栄養科		2年次	後期	1				
授業目標	栄養教育を行うためには対象者との人間関係の構築が重要であり、そのためのカウンセリングスキルを身につける必要があります。対象者の心理面を受容・共感し、食行動の課題と一緒に取り組んでいく支援者となることが栄養士の役割です。栄養教育論、栄養教育論実習実習、栄養カウンセリング論、応用栄養学で修得した基礎知識をもとに、個人や集団の栄養教育における、行動変容の支援について学修します。面接実習や演習を通してカウンセリングが実践できる能力を身につけましょう。									
	No.	到達目標			教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	栄養カウンセリングに必要な行動科学理論の基礎を説明できる。					○			
	2	クライアントとの信頼関係が築ける栄養士像とは何かを説明できる。						○		
	3	栄養カウンセリングにふさわしい環境を説明でき、カウンセラーとしての身だしなみや態度を実践できる。							○	
	4	クライアントの価値観やライフステージ、ライフスタイルに合わせたカウンセリングができる。				○				
5										
授業計画	No.	授 業 内 容			授業時間外の学修の内容と時間					
	1	オリエンテーション：実習の目的と進め方、評価方法			予習：栄養カウンセリングとは（調べ学習）(1h)					
	2	栄養カウンセリングにおける接遇とマナー			課題：レポートの作成「接遇について」(1h)					
	3	日本人の食事摂取基準（2020年版）の活用の仕方			予習：セルフモニタリングについて（調べ学習）(1h)					
	4	演習：セルフモニタリング 自身の栄養摂取目標値を知る 自身の生活と食事調査の実施			課題：生活記録、食事記録の実施（1h）					
	5	演習：自身の食事評価（食育SATシステムを用いて）			予習：自身の生活記録と食事記録の検証（1h）					
	6	演習：食事バランスガイドを活用した自身の食事評価 自身を対象者に栄養や食事の課題を探りカウンセリング計画をたててみよう			復習：自身の生活記録と栄養、食事の評価（1h）					
	7	栄養カウンセリングの実際（DVD鑑賞）			予習：特定健康診査と特定保健指導について（調べ学習）(1h)					
	8	栄養士として対象者とのかかわり方を学ぶ（DVDを鑑賞して）			課題：レポート「DVDを鑑賞して」(1h)					
	9	ライフステージ別の栄養カウンセリング I 事例に学ぶ：青年期（一人暮らしの学生）を対象とした栄養カウンセリングの課題について考える			予習：テキスト「栄養カウンセリング論」p56-61を読む					
	10	ライフステージ別の栄養カウンセリング I 演習：青年期（一人暮らしの学生）を対象とした栄養カウンセリングの計画立案			課題：青年期（一人暮らしの学生）に対する栄養カウンセリングの計画立案（1h）					
	11	ライフステージ別の栄養カウンセリング I 演習：青年期（一人暮らしの学生）を対象とした栄養カウンセリングのための教育媒体の作成			予習：青年期（一人暮らしの学生）に対する栄養カウンセリングの教育媒体の考案（1h）					
	12	ライフステージ別の栄養カウンセリング I 演習：青年期（一人暮らしの学生）を対象とした栄養カウンセリングのための教育媒体の作成			課題：青年期（一人暮らしの学生）に対する栄養カウンセリングの教育媒体の作成（1h）					
	13	ライフステージ別の栄養カウンセリング I グループワーク：青年期（一人暮らしの学生）を対象とした栄養カウンセリングの実施			予習：青年期（一人暮らしの学生）に対する栄養カウンセリングの実施（1h）					
	14	ライフステージ別の栄養カウンセリング I グループワーク：青年期（一人暮らしの学生）を対象とした栄養カウンセリングの評価			課題：青年期（一人暮らしの学生）に対する栄養カウンセリングの評価（1h）					
	15	ライフステージ別の栄養カウンセリング II 事例に学ぶ：学童期（小児メタボリックシンドロームを抱えた小学生）を対象とした栄養カウンセリングの課題について考える			予習：配布資料の事例を読む（1h）					
	16	ライフステージ別の栄養カウンセリング II 事例に学ぶ：学童期（小児メタボリックシンドロームを抱えた小学生）を対象とした栄養カウンセリングの計画立案			課題：学童期（小児メタボリックシンドローム）に対する栄養カウンセリングの計画立案（1h）					
	17	ライフステージ別の栄養カウンセリング II 演習：学童期（小児メタボリックシンドロームを抱えた小学生）を対象とした栄養カウンセリングのための教育媒体の作成			予習：学童期（小児メタボリックシンドローム）に対する栄養カウンセリングの教育媒体の考案（1h）					
18	ライフステージ別の栄養カウンセリング II 演習：学童期（小児メタボリックシンドロームを抱えた小学生）を対象とした栄養カウンセリングのための教育媒体の作成			課題：学童期（小児メタボリックシンドローム）に対する栄養カウンセリングの教育媒体の作成（1h）						

授業計画	19	ライフステージ別の栄養カウンセリング II グループワーク：学童期（小児メタボリックシンドロームを抱えた小学生）を対象とした栄養カウンセリングの実施	予習：学童期（小児メタボリックシンドローム）に対する栄養カウンセリングの実施（1h）				
	20	ライフステージ別の栄養カウンセリング II グループワーク：学童期（小児メタボリックシンドロームを抱えた小学生）を対象とした栄養カウンセリングの評価	課題：学童期（小児メタボリックシンドローム）に対する栄養カウンセリングの評価（1h）				
	21	小集団を対象とした栄養教育 事例に学ぶ：成人期（生活習慣病の発症リスクのある小集団）を対象とした栄養カウンセリングの課題について考える	予習：生活習慣病の概念について（調べ学習）(1h)				
	22	小集団を対象とした栄養教育 事例に学ぶ：成人期（生活習慣病の発症リスクのある小集団）を対象とした栄養カウンセリングの計画立案	課題：生活習慣病の発症リスクのある小集団を対象とした栄養教育の立案（1h）				
	23	小集団を対象とした栄養教育 グループワーク：集団栄養教育のための媒体作成	予習：生活習慣病の発症リスクのある小集団を対象とした栄養教育の立案（1h）				
	24	小集団を対象とした栄養教育 グループワーク：集団栄養教育のための媒体作成	課題：生活習慣病の発症リスクのある小集団を対象とした栄養教育の立案（1h）				
	25	小集団を対象とした栄養教育 グループワーク：集団栄養教育の実際（発表練習）	予習：生活習慣病の発症リスクのある小集団を対象とした栄養教育の実際（1h）				
	26	小集団を対象とした栄養教育 グループワーク：集団栄養教育の実際（発表練習）	課題：生活習慣病の発症リスクのある小集団を対象とした栄養教育の実際（1h）				
	27	小集団を対象とした栄養教育の実践と評価 グループワーク：集団栄養教育（プレゼンテーション）	予習：小集団を対象とした栄養教育の実際（対象者に伝わる教育とは）(1h)				
	28	小集団を対象とした栄養教育の実践と評価 グループワーク：集団栄養教育の評価	課題：小集団を対象とした栄養教育の評価（1h）				
29	栄養カウンセリング実習のまとめ	予習：今までの授業の振り返り（1h）					
30	レポート作成	課題：レポートの作成と提出（1h）					
履修条件や関連する科目等	「栄養カウンセリング論」を基本に、「栄養教育論」、「栄養教育論実習」、「応用栄養学」で学んだことを再確認しながら栄養カウンセリングにおける実践的な技術を身につける。						
（テキスト）	栄養カウンセリング論 化学同人（定価 1,800円+税）※講義「栄養カウンセリング論」と併用						
（参考資料）	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ⑧ 栄養教育論 化学同人 ・はじめて学ぶ 健康・栄養系教科書シリーズ⑥ 応用栄養学 化学同人 ・「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食事実践マニュアル 第一出版 ・実践 患者の行動変容を促す! 栄養指導から栄養教育へ! 栄養カウンセリングメディカ出版 						
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1	30%					
	到達目標 2	20%					
	到達目標 3				10%		10%
	到達目標 4				10%	20%	
到達目標 5							
（自由記述欄）	期末テスト：50%、栄養カウンセリングの内容や発表態度：40%、栄養士としての身だしなみや態度：10%として評価し、60点以上を合格とする。再試験を実施する。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及びフィードバックの場	<ul style="list-style-type: none"> ・演習やカウンセリングのロールプレイを行います。しっかりと準備して取り組んでください。 ・学内や学外におけるイベント、校外実習ににおいて、接遇やマナーをしっかりと修得しましょう。 ・グループワークを実施します。協力し合うことで、学修成果を高めてください。 授業や課題の質問についてはオフィスアワーで対応します。月～金 16:10～17:00 (23号館 1階101号室)						
添削等	栄養士免許取得資格：栄養の指導（必修科目）						
学生へのメッセージ	<メッセージ> 相手の言葉や気持ちを正確に受け止めること、また伝えたい思いを的確に表現することは大変難しいことです。栄養カウンセリングを行うためには、知識や技術だけではなく、相手に寄り添う気持ちが大切です。カウンセラーとしてクライアントと信頼関係を築く気持ちや態度は、社会人として具備すべきことでもあります。この授業でしっかりと身につけていきましょう。グループワークを実施する際の班構成はテーマごとに変更します。また状況によって遠隔での実施となる場合があります。 <実務家教員としてのメッセージ> 健康のためと理解していても、行動変容につなげていくことは大変難しいことです。クライアントに寄り添い、クライアントから学ぶという姿勢を忘れずに、栄養の専門家としてカウンセリングスキルを修得して下さい。						
ナカバシ	TNF-2-01-010						

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AA240060	給食計画・実務論 [1AB]		浜 野 香 奈					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
給食の運営	[24] 食物栄養科		1年次	前期	2			
授業概要	栄養士として給食運営に必要な基礎知識について学びます。給食の定義や関連法規など、給食の概念を理解した上で、献立作成を含めた給食管理の知識や技術の修得につなげていきます。給食施設別の対象者に対して、適切な栄養管理に基づいた、安全・安心でなおかつ美味しい給食を提供することができるようになります。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	特定給食施設における給食の目的や栄養士の役割について説明できるようになる。			○			
	2	調理従事者に必要な衛生管理、大量調理施設衛生管理マニュアルを学び、実践で活かすことができるようになる。				○		
	3	給食を提供する対象者に適した食事計画や、調理作業計画を作成することができるようになる。		○				
	4							
5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	オリエンテーション（授業の目的や進め方、評価方法） 給食の概念と定義 食環境、食の問題について	予習：テキストp1-6を読む（1h） 復習：テキスト巻末問題（p15）をまとめる（1h）					
	2	特定給食施設の種類と関連法規 特定給食施設とは 「健康増進法」とその他の関連法規	予習：テキストp17-24を読む（1h） 復習：テキスト巻末問題（p24）をまとめる（1h）					
	3	栄養管理・献立作成計画 I 対象者の把握と給与栄養目標量の設定 給与栄養目標量を充足させる食品構成表の作成の意義	予習：テキストp25-30を読む（1h） 課題：給与栄養目標量をもとに食品構成表を作成してみよう（1h）					
	4	栄養管理・献立作成計画 II 献立作成の基本的な考え方 食品構成表に準じた献立作成の方法と意義	予習：テキストp30-36を読む（1h） 課題：食品構成表に準じて献立を作成してみよう（1h）					
	5	栄養管理・献立作成計画 III 購入計画（食材の発注、検品・検収、保管について）	予習：テキストp37、45-50を読む（1h） 課題：献立表に準じて食材の発注計算を行ってみよう（1h）					
	6	栄養管理・献立作成計画 IV 食事の評価項目について 献立についての様々な評価について（検食簿、嗜好調査、残食調査）	予習：テキストp38-39、51-53を読む（1h） 課題：嗜好調査の調査項目を考案してみよう（1h）					
	7	衛生・安全管理 HACCPとは 大量調理施設衛生管理マニュアルについて	予習：テキストp55-67を読む（1h） 復習：テキスト巻末問題（p68）をまとめる（1h）					
	8	第1～7回の授業の振り返り（中間テスト）	予習：第1～7回の授業の復習（1h） 復習：テスト問題の復習（1h）					
	9	施設・設備管理 給食施設のレイアウト 調理室内の機械・器具	予習：テキストp105-117を読む（1h） 復習：テキスト巻末問題（p117）を解く（1h）					
	10	特定給食施設の特徴 I 病院（入院時食事療養） 病院食の特徴（一般治療食と特別治療食）	予習：テキストp126-129を読む（1h） 課題：一般食と治療食についてまとめる（1h）					
	11	特定給食施設の特徴 II 児童福祉施設給食	予習：テキストp129-133を読む（1h） 課題：保育園給食の食事基準についてまとめる（1h）					
	12	特定給食施設の特徴 III 産業給食（事業所） 給食受託会社について	予習：テキストp133-135を読む（1h） 課題：給食のシステムについてまとめる（1h）					
	13	特定給食施設の特徴 IV 社会福祉施設（高齢者） 行事食の意義とメッセージカードについて	予習：テキストp135-141を読む（1h） 課題：メッセージカードを作成してみよう（1h）					
	14	特定給食施設の特徴 V 小学校給食	予習：テキストp141-144を読む（1h） 課題：学校給食を振り返り「リクエスト給食」を考案してみよう（1h）					
15	授業のまとめ（期末テスト対策）	予習：授業の振り返り（1h） 復習：期末テスト勉強（1h）						

履修条件や関連する科目等	・給食の運営（給食経営管理実習Ⅰ） ・栄養と健康（臨床栄養学各論、臨床栄養学実習）							
教科書	イラスト給食経営管理論<第2版> 内田和宏 他編 東京教学社（定価 2,300円+税）							
参考資料	大分県栄養士会版「栄養管理の手びき」 日本人の食事摂取基準2020年版 第一出版							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1		20%		10%			
	到達目標 2		20%		10%			
	到達目標 3		20%		10%		10%	
	到達目標 4							
	到達目標 5							
評価方法	期末試験：60%、課題・レポート：30%、授業の取り組み姿勢10%で評価し、60点以上を合格とします。再試験を実施します。							
評価基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	・授業計画に授業内容を示しています。予習を行って授業に臨んでください。 ・献立作成に関する課題やレポートを実施します。 課題や質問についてはオフィスアワーで対応します（研究室23号館1階101号室） 月～金 16:10～17:00							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	栄養士免許取得資格：給食の運営（必修科目）							
学生へのメッセージ	<p><メッセージ> 給食の計画や実務は栄養士の基本的な業務です。また2年次の夏休みに実施される校外実習に臨むにあたって、給食の基礎を学ぶための重要な科目です。給食施設ごとの特徴に沿った給食管理をしっかりと理解しましょう。この授業科目は状況によっては遠隔で実施される可能性があります。</p> <p><実務家教員としてのメッセージ> 「栄養士や管理栄養士により管理された食事は最も優れた栄養指導媒体である」という言葉があります。献立作成は栄養士業務の中で中心となるものです。栄養士の考案する献立は栄養面についてとらわれてしまいがちですが、献立作成はおいしさはもちろんのこと、様々な側面から考案しなければなりません。幅広い視野を持ち、安全・安心でかつ美味しい食事が提供できるよう知識や技術を兼ね備えた栄養士になってください。</p>							
ナパシグ	FSM-2-01-010							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
T5AJ240172	外国語 (英語) [2AB]				大 田 亜 紀			
科目区分	対象学科			対象学年	開講期間	単位数		
<専門科目>	[23] 初等教育科			2年次	後期	2		
授業概要	小学校における外国語科、外国語活動の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付ける。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小、中、高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。		○				
	2	児童期の第二言語習得の特徴について理解する。		○				
	3	実践に必要な基本的な指導技術身に付ける。				○		
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	オリエンテーション 小学校における外国語教育	授業内容の復習 (1h)					
	2	日本の外国語教育の変遷	授業内容の復習 (1h)					
	3	第二言語習得に関する基本的な知識 ・言語はどのように学ばれるか	授業内容の復習 (1h)					
	4	第二言語習得に関する基本的な知識 ・英語という言語の特質	授業内容の復習 (1h)					
	5	聞くことの目標と指導 1 ・内容理解の為のリスニング ・グループ発表 (目標及び 内容、指導の留意点について) および質疑	授業内容の復習、発表資料準備 (1h)					
	6	聞くことの目標と指導 2 ・リスニング指導 ・グループ発表 (目標及び 内容、指導の留意点について) および質疑	授業内容の復習、発表資料準備 (1h)					
	7	話すことの目標と指導 1 ・話すことー発表 ・グループ発表 (目標及び 内容、指導の留意点について) および質疑	授業内容の復習、発表資料準備 (1h)					
	8	話すことの目標と指導 2 ・話すことーやりとり ・グループ発表 (目標及び 内容、指導の留意点について) および質疑	授業内容の復習、発表資料準備 (1h)					
	9	読むこと・書くことの目標と指導 1 ・小学校における書くことの目標、文字の指導 ・グループ発表 (目標及び 内容、指導の留意点について) および質疑	授業内容の復習、発表資料準備 (1h)					
	10	読むこと・書くことの目標と指導 2 ・小学校における書くことの目標、文字の指導 ・グループ発表 (目標及び 内容、指導の留意点について) および質疑	授業内容の復習 (1h)					
	11	小学校外国語活動・外国語科の教材作成 1 ・ICT活用教材作成	授業内容の復習、教材作成資料収集 (1h)					
	12	小学校外国語活動・外国語科の教材作成 2 ・ICT活用教材作成	授業内容の復習、教材作成準備 (1h)					
	13	小学校外国語活動・外国語科の教材作成 3 ・ICT活用教材発表	授業内容の復習 (1h)					
	14	小学校外国語活動・外国語科の評価の在り方	授業内容の復習 (1h)					
15	授業のまとめ	授業内容の復習 (1h)						
履修条件や関連する科目等	外国語 (英語) 指導法							
テキスト	小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 (文部科学省)							
参考書 (授業資料)	実践! 新学習指導要領 基本が分かる 外国語活動・外国語科の授業 (東洋館出版社) 平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 外国語活動編 (明治図書) 平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 外国語編 (明治図書) 「小学校外国語活動・外国語科 研修ガイドブック」文部科学省 すぐれた小学校英語授業 (研究社)							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1	15%		10%		10%	
	到達目標 2	15%		10%		10%	
	到達目標 3			20%		10%	
	到達目標 4						
	到達目標 5						
(自由記述欄) 評価方法	期末試験 (確認テスト) 30% 課題・レポート (授業記録ノート内容、発表内容、発表資料、作成物 (ICT教材) 40% 授業の取り組み姿勢 (授業への参加、ノート期限内提出) 30% ※再試は実施しない						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	オフィスアワー：月、木 14:40-16:10 課題、レポート等については授業内で指示します。						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	小学校免許：教科に関する科目						
学生へのメッセージ	教育現場における様々な経験を活かし、小学校における外国語活動、外国語科の授業実践に必要な知識や指導技術について講義を行いますので、授業場面を意識しながら学びましょう。 ※クラウド型学習支援システム「ロイロノート」を授業で毎回使用します。毎回、パソコンが必要です。(スマホ不可) ※この授業科目は、感染症等の状況によって内容の変更や遠隔授業での実施等に変更することがあります。						
ナパシ	ENG-0-28-700						

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5A)240164	社会 [2AB]		落 合 弘					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[23] 初等教育科		2年次	後期	2			
授業概要	小学校学習指導要領の目標と内容を踏まえ、教科の基盤となっている社会諸科学に関連付けつつ、内容や構成について理解を深める。また、DX時代の教科指導を念頭に、デジタル教科書、デジタル教材、ICT機器を効果的に活用した授業を、学習指導要領に基づいて計画し実践できる力を養成する。講座の中で学生による模擬授業や相互評価、ディスカッションの場を設定し、アクティブな学びが実現できるようにする。対面での授業を基本としているが、感染症対策などのためにオンラインとする場合にはオンデマンド形式での配信授業とする。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	小学校学習指導要領社会科の目標及び内容を理解し、学習指導案をつくることができる。				○		
	2	子どもの実態をイメージしながら社会科の指導計画を立案できる。				○		
	3	社会科についての専門性を高め、学習計画に生かすことができる。		○				
	4	ICT危機を効果的に活用できる。				○		
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	社会諸科学と社会科の関係について考える。						
	2	DX時代の社会科学習について考える。						
	3	学習指導要領社会科について、目標と内容を理解する。						
	4	3年の目標と内容を理解する。						
	5	3年の内容から一つを取り上げ、大単元を設定し、模擬授業と相互評価を行う。 「身近な地域と市区町村の様子について」「地域にみられる生産や販売の仕事について」						
	6	3年の内容から一つを取り上げ、大単元を設定し、模擬授業と相互評価を行う。 「地域の安全を守る働きについて」「市の様子の移り変わりについて」						
	7	4年の目標と内容を理解する。						
	8	4年の内容から一つを取り上げ、大単元を設定し、模擬授業と相互評価を行う。 「都道府県の様子について」「人々の健康や生活環境を支える仕事について」						
	9	4年の内容から一つを取り上げ、大単元を設定し、模擬授業と相互評価を行う。 「自然災害から人々を守る活動について」「県内の伝統や文化、先人の働きについて」「県内の特色ある地域の様子について」						
	10	5年の目標と内容を理解する。						
	11	5年の内容から一つを取り上げ、大単元を設定し、模擬授業と相互評価を行う。 「我が国の国土の様子と国民生活について」「我が国の農業や水産業における食料生産について」「我が国の工業生産について」						
	12	5年の内容から一つを取り上げ、大単元を設定し、模擬授業と相互評価を行う。 「我が国の産業と情報のかかわりについて」「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について」						
	13	6年の目標と内容を理解する。						
	14	6年の内容から一つを取り上げ、大単元を設定し、模擬授業と相互評価を行う。 「我が国の政治の働きについて」「我が国の歴史上の主な事象について」						
15	6年の内容から一つを取り上げ、大単元を設定し、模擬授業と相互評価を行う。 「グローバル化する世界と日本の役割について」							
履修条件や関連する科目等	特になし							
教科書	特になし							

(授業資料)	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 文部科学省						
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1			10%	15%		
	到達目標 2			10%	15%		
	到達目標 3			10%	10%		
	到達目標 4				20%	10%	
到達目標 5							
(自由記述欄)	大単元の指導計画、指導案の作成内容、模擬授業などのプレゼンテーションの内容評価、ディスカッションへの参加状況を評価します。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	オフィスアワーに質問を受け付けます。プレゼンテーションの評価はその都度フィードバックします。						
科目に定める必要事項	法令等に定められた授業						
学生へのメッセージ	この講座では、受講者の皆さんが担当する学校の児童に合った社会科授業を的確に構想できるようになることを目指します。そのさい、私自身が学校で授業をした経験や、国内外の社会科授業に関する先進的な取り組みを紹介するとともに、デジタル教科書やデジタル教材についての活用も積極的に進めます。						
ナバング	SUP-2-02-020						

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AJ240181	教育原理 [1B]		落 合 弘					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 初等教育科		1 年次	後期	2			
授業概要	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解するとともに、現代の学校教育に関する社会的事項の基礎的な知識とそれに関連する課題、地域等との連携・協働、安全への対応について理解する。また、保育者の役割、保育士の制度的な位置づけ、専門性、資質向上について理解し、もって初等教育に携わる教師・保育士についての理解を深める。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	我が国における今日の学校教育・保育や教職・保育職の社会的意義を理解するとともに、今日の教員・保育者に求められる役割や資質能力を理解する。		○				
	2	教員・保育士の職務内容や課せられる義務を理解する。				○		
	3	学校・保育所が内外の専門家と連携・分担する必要性について理解する。				○		
	4	社会の状況を理解しその変化が学校教育にもたらす影響と教育政策の動向を理解するとともに、現代公教育制度の基礎的知識と内在する課題を理解する。		○				
	5	学校・保育所と地域との連携・協働について理解するとともに、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。				○		
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	教育・保育の理念と目的	復習、課題 (1h)					
	2	教職・保育職の意義と職業的特徴	復習、課題 (1h)					
	3	教員・保育士の職務内容① 小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針を学ぶ	復習、課題 (1h)					
	4	教員・保育士の職務内容② 指導や保育以外の職務、教員・保育士の一日を追う	復習、課題 (1h)					
	5	教員・保育士の服務、権利と身分保障	復習、課題 (1h)					
	6	教員・保育士のライフステージ 研修とキャリア形成	復習、課題 (1h)					
	7	求められる組織的対応 チーム学校運営への対応	復習、課題 (1h)					
	8	家庭との連携や保護者への支援、関係者・関係機関との連携・協働	復習、課題 (1h)					
	9	教育・保育の計画と実践、評価	復習、課題 (1h)					
	10	学校・保育所を巡るさまざまな課題と対応	復習、課題 (1h)					
	11	進む教育改革 近年の教育政策を理解する	復習、課題 (1h)					
	12	諸外国の教育・保育事情や教育改革	復習、課題 (1h)					
	13	地域との連携・協働	復習、課題 (1h)					
	14	学校・保育所の安全への対応 事件・事故・災害から子どもたちを守るために	復習、課題 (1h)					
	15	まとめ 次代を担う教師・保育士として活躍するために	復習、課題 (1h)					
履修条件や関連する科目等	特になし							
テキスト	授業時にプリントを配布します。							
参考書	特になし							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 2	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 3	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 4	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 5	10%	3%	3%		4%	
評価方法 (自由記述欄)	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験50%、小テスト15%、課題・レポート15%、授業取組み姿勢20%で評価します。 ・この科目は、再試を実施します。 						
	基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。					
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーに質問を受け付けます。研究室516 ・質問や相談等は、オフィスアワー以外でも可能な限り受け付けますので、事前にメールでアポをとってください。 ・小テスト及び課題は授業の中で返却コメントします。 ・期末試験の答案返却の方法・日時については、授業の中で指示します。 						
法令等に定められた授業科目に定める必要事項	この授業は、教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」の「教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。)」及び「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」並びに児童福祉法施行規則に基づく厚生労働大臣告示に定められた「保育者論(講義)」に該当し、幼稚園教諭2種、小学校教諭2種及び保育士資格取得のための必修科目です。						
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身の学校・教育委員会における勤務経験を活かして、実践的な授業を行います。 ・毎回の授業でmoodleを使用するため、スマートフォン等を持参してください。(ICT活用) ・この授業は対面授業を基本としていますが、新型コロナウイルス感染防止等のため遠隔授業になる場合 						
ナバシ	PED-1-01-020						

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AJ240175	教職概論 [1A]		落 合 弘					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 初等教育科		1年次	前期	2			
授業概要	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解するとともに、現代の学校教育に関する社会的事項の基礎的な知識とそれに関連する課題、地域等との連携・協働、安全への対応について理解する。また、保育者の役割、保育士の制度的な位置づけ、専門性、資質向上について理解し、もって初等教育に携わる教師・保育士についての理解を深める。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	我が国における今日の学校教育・保育や教職・保育職の社会的意義を理解するとともに、今日の教員・保育者に求められる役割や資質能力を理解する。		○				
	2	教員・保育士の職務内容や課せられる義務を理解する。				○		
	3	学校・保育所が内外の専門家と連携・分担する必要性について理解する。				○		
	4	社会の状況を理解しその変化が学校教育にもたらす影響と教育政策の動向を理解するとともに、現代公教育制度の基礎的知識と内在する課題を理解する。		○				
	5	学校・保育所と地域との連携・協働について理解するとともに、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。				○		
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	教育・保育の理念と目的	復習、課題 (1h)					
	2	教職・保育職の意義と職業的特徴	復習、課題 (1h)					
	3	教員・保育士の職務内容 ①小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針を学ぶ	復習、課題 (1h)					
	4	教員・保育士の職務内容 ②指導や保育以外の職務、教員・保育士の一日を追う	復習、課題 (1h)					
	5	教員・保育士の服務、権利と身分保障	復習、課題 (1h)					
	6	教員・保育士のライフステージ 研修とキャリア形成	復習、課題 (1h)					
	7	求められる組織的対応 チーム学校運営への対応	復習、課題 (1h)					
	8	家庭との連携や保護者への支援、関係者・関係機関との連携・協働	復習、課題 (1h)					
	9	教育・保育の計画と実践、評価	復習、課題 (1h)					
	10	学校・保育所を巡るさまざまな課題と対応	復習、課題 (1h)					
	11	進む教育改革 近年の教育政策を理解する	復習、課題 (1h)					
	12	諸外国の教育・保育事情や教育改革	復習、課題 (1h)					
	13	地域との連携・協働	復習、課題 (1h)					
	14	学校・保育所の安全への対応 事件・事故・災害から子どもたちを守るために	復習、課題 (1h)					
	15	まとめ 次代を担う教師・保育士として活躍するために	復習、課題 (1h)					
履修条件や関連する科目等	特になし							
テキスト	授業時にプリントを配布します。							
参考書	特になし							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 2	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 3	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 4	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 5	10%	3%	3%		4%	
評価方法 (自由記述欄)	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験50%、小テスト15%、課題・レポート15%、授業取組み姿勢20%で評価します。 ・この科目は、再試を実施します。 						
	基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。					
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー：月曜日3限、水曜日2限 研究室：24号館501 ・質問や相談等は、オフィスアワー以外でも可能な限り受け付けますので、事前にメールでアポをとってください。 ・小テスト及び課題は授業の中で返却コメントします。 ・期末試験の答案返却の方法・日時については、授業の中で指示します。 						
法令等に定められた授業科目に定める必要事項	この授業は、教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」の「教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。)」及び「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」並びに児童福祉法施行規則に基づく厚生労働大臣告示に定められた「保育者論(講義)」に該当し、幼稚園教諭2種、小学校教諭2種及び保育士資格取得のための必修科目です。						
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・教育委員会における勤務経験を活かして、実践的な授業を行います。 ・毎回の授業でmoodleを使用するため、スマートフォン等を持参してください。(ICT活用) ・この授業は対面授業を基本としていますが、新型コロナウイルス感染防止等のため遠隔授業になる場合があります。 						
ナバング	DID-1-01-020						

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
T5AJ240348	教育方法論 [2E]				落 合 弘			
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[23] 初等教育科		2年次	前期	2			
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけることをめざす。特に、小学校や保育園幼稚園などの教育場面を想定しつつ、児童や園児にとって最適な教育方法を選択し提供できるよう、理論と実践事例を学ぶ。また、情報機器を積極的に活用し、子どもたちの発達段階に応じた情報機器活用力を適切に育てていく力を身につけるため、講座の後半では具体的な教材開発を体験する。全授業とも対面で実施予定であるが、感染防止等などのために対面が難しい場合にはオンデマンド形式での配信授業とする。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解することができる。		○				
	2	教育の目的に適した指導技術を理解した上で、具体的な教育場面で実践することができる。				○		
	3	情報機器を活用した効果的な教育や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。				○		
	4							
5								
到達目標	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	教育の方法と技術とは何か	復習課題（1時間）					
	2	教育方法の理論と歴史	復習課題（1時間）					
	3	教育方法から見たカリキュラム	復習課題（1時間）					
	4	学習理論と評価	復習課題（1時間）					
	5	教授法とアクティブラーニング	復習課題（1時間）					
	6	教育保育に求められる環境と教育方法	復習課題（1時間）					
	7	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領と教育方法	復習課題（1時間）					
	8	情報機器の活用	復習課題（1時間）					
	9	情報活用能力の育成	復習課題（1時間）					
	10	保育・幼児教育・初等教育での具体的場面を想定した教育方法と教材開発の研究1（グループワーク）目標に応じた教材選定について	復習課題（1時間）					
	11	保育・幼児教育・初等教育での具体的場面を想定した教育方法と教材開発の研究2（グループワーク）目標を実現するための教材構成について	復習課題（1時間）					
	12	保育・幼児教育・初等教育での具体的場面を想定した教育方法と教材開発の研究3（グループワーク）教材の効果的活用方法について	復習課題（1時間）					
	13	実践の事例研究1 0歳～6歳児を対象にした教材活用事例の報告と協議	復習課題（1時間）					
	14	実践の事例研究2 小学校児童を対象とした教材活用事例の報告と協議	復習課題（1時間）					
	15	教育方法の動向と今後の課題	復習課題（1時間）					
履修条件や関連する科目等	特になし							
テキスト	授業中にワークシートを配布します							
参考書	特になし							
評価方法と割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取り組み姿勢	その他	
	到達目標 1		10%	10%	5%	5%		
	到達目標 2		10%	10%	5%	5%		
	到達目標 3		10%	10%	15%	5%		
	到達目標 4							
	到達目標 5							

（自由記述欄） 評価方法	講座で使用するワークシートを毎回提出し、担当者がこれをもとに授業への取り組み姿勢、内容の理解度を評価する。（15%） 授業中に実施する小テスト（30%） 課題・レポート グループワークにより教材作成を行い教材の完成度を評価する（30%） 発表 グループワークによる成果発表を評価する（25%）
	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。
学習相談及び学習成果のフィードバック	学習相談：疑問や質問はメールで問い合わせてください。またオフィスアワーに相談を受け付けています。 フィードバック：小テスト、ワークシートを活用してフィードバックを行います。
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	教育の方法および技術（情報機器および教材の活用を含む）
学生へのメッセージその他	私自身が、学校で教員や管理職として体験した事例を参考に、教育方法に関する実践的な知識技術を習得できるように学習していきます。授業では考える場面や発言する場面、新しい教材を作成し、教材活用の提案をする場面を設定しています。積極的な取り組みを期待しています。
ナカワグ	DID-2-04-020

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AJ240182	教育原理 [1C]		久 保 田 圭 二					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 初等教育科		1年次	後期	2			
授業概要	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解するとともに、現代の学校教育に関する社会的事項の基礎的な知識とそれに関連する課題、地域等との連携・協働、安全への対応について理解する。また、保育者の役割、保育士の制度的な位置づけ、専門性、資質向上について理解し、もって初等教育に携わる教師・保育士についての理解を深める。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	我が国における今日の学校教育・保育や教職・保育職の社会的意義を理解するとともに、今日の教員・保育者に求められる役割や資質能力を理解する。		○				
	2	教員・保育士の職務内容や課せられる義務を理解する。				○		
	3	学校・保育所が内外の専門家と連携・分担する必要性について理解する。				○		
	4	社会の状況を理解しその変化が学校教育にもたらす影響と教育政策の動向を理解するとともに、現代公教育制度の基礎的知識と内在する課題を理解する。		○				
	5	学校・保育所と地域との連携・協働について理解するとともに、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。				○		
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	教育・保育の理念と目的	復習、課題 (1h)					
	2	教職・保育職の意義と職業的特徴	復習、課題 (1h)					
	3	教員・保育士の職務内容① 小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針を学ぶ	復習、課題 (1h)					
	4	教員・保育士の職務内容② 指導や保育以外の職務、教員・保育士の一日を追う	復習、課題 (1h)					
	5	教員・保育士の服務、権利と身分保障	復習、課題 (1h)					
	6	教員・保育士のライフステージ 研修とキャリア形成	復習、課題 (1h)					
	7	求められる組織的対応 チーム学校運営への対応	復習、課題 (1h)					
	8	家庭との連携や保護者への支援、関係者・関係機関との連携・協働	復習、課題 (1h)					
	9	教育・保育の計画と実践、評価	復習、課題 (1h)					
	10	学校・保育所を巡るさまざまな課題と対応	復習、課題 (1h)					
	11	進む教育改革 近年の教育政策を理解する	復習、課題 (1h)					
	12	諸外国の教育・保育事情や教育改革	復習、課題 (1h)					
	13	地域との連携・協働	復習、課題 (1h)					
	14	学校・保育所の安全への対応 事件・事故・災害から子どもたちを守るために	復習、課題 (1h)					
	15	まとめ 次代を担う教師・保育士として活躍するために	復習、課題 (1h)					
履修条件や関連する科目等	特になし							
テキスト	授業時にプリントを配布します。							
参考書	特になし							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1		10%	3%	3%		4%	
	到達目標 2		10%	3%	3%		4%	
	到達目標 3		10%	3%	3%		4%	
	到達目標 4		10%	3%	3%		4%	
	到達目標 5		10%	3%	3%		4%	
評価方法 (自由記述欄)	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験50%、小テスト15%、課題・レポート15%、授業取組み姿勢20%で評価します。 ・この科目は、再試を実施します。 							
	基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーに質問を受け付けます。研究室516 ・質問や相談等は、オフィスアワー以外でも可能な限り受け付けますので、事前にメールでアポをとってください。 ・小テスト及び課題は授業の中で返却コメントします。 ・期末試験の答案返却の方法・日時については、授業の中で指示します。 							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	この授業は、教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」の「教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。)」及び「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」並びに児童福祉法施行規則に基づく厚生労働大臣告示に定められた「保育者論(講義)」に該当し、幼稚園教諭2種、小学校教諭2種及び保育士資格取得のための必修科目です。							
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身の学校・教育委員会における勤務経験を活かして、実践的な授業を行います。 ・毎回の授業でmoodleを使用するため、スマートフォン等を持参してください。(ICT活用) ・この授業は対面授業を基本としていますが、新型コロナ感染防止等のため遠隔授業になる場合 							
ナバシ	PED-1-01-020							

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
T1AJ240110	法学（日本国憲法）[1B]				久 保 田 圭 二			
科目区分	対象学科			対象学年	開講期間	単位数		
<教養科目>	[24] 初等教育科			1年次	後期	2		
授業概要	日本国憲法が掲げる理想を理解し、その理想の実現を図るためには何をなすべきかを考えることは、次代の日本を担う子供達への教育を目指す者の使命である。この授業では、憲法の成り立ちから、前文や条文を読みながらわかりやすく説明し、憲法への理解をすすめる。また、日常生活と憲法や法律の関連を具体的にイメージできるよう時事問題を適宜とりあげるとともに、教職・保育職を志す者が日本国憲法を学ぶ意味を理解し、それを尊重する態度を身に付ける。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	日本国憲法についての基本的な知識を身に付ける。	○					
	2	日本国憲法や法律と、日常生活の関連をイメージする。						○
	3	教職・保育職を志す者が日本国憲法を学ぶ意味を理解し、それを尊重する態度を身に付ける。			○			
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	憲法とは何か	復習、課題（1h）					
	2	日本国憲法の成立過程	復習、課題（1h）					
	3	日本国憲法の前文	復習、課題（1h）					
	4	国民主権と天皇制	復習、課題（1h）					
	5	日本の平和主義① 平和主義の原理	復習、課題（1h）					
	6	日本の平和主義② 第9条と戦争放棄	復習、課題（1h）					
	7	基本的人権	復習、課題（1h）					
	8	法の下での平等	復習、課題（1h）					
	9	自由権	復習、課題（1h）					
	10	社会権	復習、課題（1h）					
	11	国会と立法	復習、課題（1h）					
	12	内閣と行政	復習、課題（1h）					
	13	裁判所と司法	復習、課題（1h）					
	14	地方自治	復習、課題（1h）					
	15	憲法改正と最高法規	復習、課題（1h）					
履修条件や関連する科目等	特になし							
教科書 (テキスト)	プリントを使用します。(事前ダウンロード又は授業時配布)							
参考書 (授業資料)	特になし							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取組み姿勢	その他	
	到達目標 1	50%	10%	5%		5%		
	到達目標 2			5%	5%	5%		
	到達目標 3			5%	5%	5%		
	到達目標 4							
	到達目標 5							
評価方法 (自由記述欄)	・期末試験50%、小テスト10%、課題・レポート15%、発表10%、授業の取組み姿勢15%で評価します。 ・この科目は、再試を実施します。							

基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。
学習相談及び学習成果のフィードバック	・オフィスアワー：●曜日●限、●曜日●限 研究室：24号館501 ・質問や相談等は、オフィスアワー以外でも在室時は対応します。できるだけメールで予約してください。 ・小テスト及び課題は、moodle又は授業の中で返却コメントします。 ・期末試験の答案返却の方法・日時については、授業の中で指示します。
法令等に定められた科目に定める必要事項	この授業は、教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」の「日本国憲法」及び児童福祉法施行規則に基づく厚生労働大臣告示に定められた「教養科目（外国語、体育以外の科目）」に該当し、幼稚園教諭2種、小学校教諭2種取得のための必修科目、保育士資格取得のための選択科目です。
学生へのメッセージ その他	・学校及び教育委員会での勤務経験を活かして、教育の実践者の立場から日本国憲法を見つめ、より実践的な授業を行います。 ・毎回の授業で、出席、小テスト、ミニツッペーパー、課題にmoodleを使用するため、スマートフォン、パソコン等を持参してください。(ICT活用) ・欠席（公欠を含む）の場合 授業の資料（パワーポイント等）は、moodleからダウンロードしてください。(ICT活用) ミニツッペーパーの提出は不要ですが、課題の提出は求めます。 ・この授業は対面授業を基本としていますが、感染症防止等のため遠隔授業になる場合があります。
ナカソグ	LAW-0-01-700

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AJ240345	教育方法論 [2B]		久 保 田 圭 二					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[23] 初等教育科		2年次	前期	2			
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけることをめざす。特に、小学校や保育園幼稚園などの教育場面を想定しつつ、児童や園児にとって最適な教育方法を選択し提供できるよう、理論と実践事例を学ぶ。また、情報機器を積極的に活用し、子どもたちの発達段階に応じた情報機器活用力を適切に育てていく力を身につけるため、講座の後半では具体的な教材開発を体験する。全授業とも対面で実施予定であるが、感染防止等などのために対面が難しい場合にはオンデマンド形式での配信授業とする。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解することができる。		○				
	2	教育の目的に適した指導技術を理解した上で、具体的な教育場面で実践することができる。				○		
	3	情報機器を活用した効果的な教育や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。				○		
	4							
5								
到達目標	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	教育の方法と技術とは何か	復習課題 (1時間)					
	2	教育方法の理論と歴史	復習課題 (1時間)					
	3	教育方法から見たカリキュラム	復習課題 (1時間)					
	4	学習理論と評価	復習課題 (1時間)					
	5	教授法とアクティブラーニング	復習課題 (1時間)					
	6	教育保育に求められる環境と教育方法	復習課題 (1時間)					
	7	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領と教育方法	復習課題 (1時間)					
	8	情報機器の活用	復習課題 (1時間)					
	9	情報活用能力の育成	復習課題 (1時間)					
	10	保育・幼児教育・初等教育での具体的場面を想定した教育方法と教材開発の研究1 (グループワーク) 目標に応じた教材選定について	復習課題 (1時間)					
	11	保育・幼児教育・初等教育での具体的場面を想定した教育方法と教材開発の研究2 (グループワーク) 目標を実現するための教材構成について	復習課題 (1時間)					
	12	保育・幼児教育・初等教育での具体的場面を想定した教育方法と教材開発の研究3 (グループワーク) 教材の効果的活用方法について	復習課題 (1時間)					
	13	実践の事例研究1 0歳～6歳児を対象にした教材活用事例の報告と協議	復習課題 (1時間)					
	14	実践の事例研究2 小学校児童を対象とした教材活用事例の報告と協議	復習課題 (1時間)					
	15	教育方法の動向と今後の課題	復習課題 (1時間)					
履修条件や関連する科目等	特になし							
(テキスト)	授業中にワークシートを配布します							
(参考書)	特になし							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取り組み姿勢	その他	
	到達目標 1		10%	10%	5%	5%		
	到達目標 2		10%	10%	5%	5%		
	到達目標 3		10%	10%	5%	5%		
	到達目標 4							
	到達目標 5							

(自由記述欄)	講座で使用するワークシートを毎回提出し、担当者がこれをもとに授業への取り組み姿勢、内容の理解度を評価する。(15%) 授業中に実施する小テスト (30%) 課題・レポート グループワークにより教材作成を行い教材の完成度を評価する (30%) 発表 グループワークによる成果発表を評価する (25%)
評価方法	
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。
学習相談及び学習成果のフィードバック	学習相談：疑問や質問はメールで問い合わせてください。またオフィスアワーに相談を受け付けています。 フィードバック：小テスト、ワークシートを活用してフィードバックを行います。
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	教育の方法および技術 (情報機器および教材の活用を含む)
学生へのメッセージ	私自身が学校で教員や管理職として体験した事例を参考に、教育方法に関する実践的な知識技術を習得できるように学習していきます。授業では考える場面や発言する場面、新しい教材を作成し、教材活用の提案をする場面を設定しています。積極的な取り組みを期待しています。
ナカソグ	DID-2-04-020

科目コード		科 目 名				担 当 教 員 名			
T5AJ240229		教育課程論 [1A]				三 宮 知 恭			
科目区分		対象学科				対象学年	開講期間	単位数	
<専門科目>		[24] 初等教育科				1年次	後期	2	
授業概要	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の内容を基準として、教育課程の意義と教育実践に即した編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。								
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力	
到達目標	1	学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。		○					
	2	教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。					○		
	3	教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。							○
	4	学校全体の教育課程の編成について、モデル案等を調べ、各領域や教科等の指導計画、全体の教育課程を作成する意義と作成について学ぶ。				○			
	5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間						
	1	教育課程とは何か 教育関係法規の歴史や内容から	配布した学修資料の理解						
	2	教育課程を編成するにあたり必要なことを理解する	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	3	何故、教育課程を編成する必要があるのか理解する	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	4	平成29年告示の教育・保育に関わる法規の改訂の主旨を理解する	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	5	幼稚園教育要領の改訂や内容について理解する 保育所保育指針の改訂やその内容について理解する 認定こども園教育・保育要領について、その内容について理解する	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	6	幼稚園・保育所・認定こども園で求められている「育てたい10の姿」について理解する 幼児教育から小学校教育へのつながりを理解する アプローチ・カリキュラム、スタート・カリキュラムについて理解する	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	7	保育・幼稚園教育現場での「保育案」年間計画・学期案・月案・週案・日案の作成について学ぶ	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	8	学習指導要領のねらい（総則を中心に）を理解する	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	9	教育課程（指導計画）作成の具体的方法について知る 学習指導要領と照らしながら全体計画に必要な内容について理解する。	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	10	「地域に開かれた教育課程」について理解する 地域や保護者との連携のあり方について考えを深め、広げる	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	11	防災教育など教育現場に求められている様々な分野の教育課程（計画）について、理解する	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	12	各教科の教育課程（指導計画、学習指導案）について知る	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	13	学習指導案について理解しよう 「算数」の学習指導案を例として学ぶ	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
	14	教科以外（学級活動など特別活動等）の学び方と教育課程について理解しよう	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。						
15	カリキュラム・マネジメントの意義と重要性、まとめ	返却されたワークシートの修正・加筆を行い、前時の学修内容の理解を深める。 配布された学修資料を理解（整理）する。							

履修条件や関連する科目等	学校教育要領、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領や教育関係法規に関する科目						
（教科書）	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 						
（参考資料）	<ul style="list-style-type: none"> ・保育課程・教育課程総論（ミネルヴァ書房） ・その他、必要に応じて紹介する。 						
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1	10%		15%		5%	
	到達目標 2	10%		15%			
	到達目標 3	10%		15%			
	到達目標 4			20%			
（自由記述欄）評価方法	毎時間の課題シートの内容（穴埋だけでなくメモ書きを含む）や指導案等の作成を評価し、積み上げていく。学修の到達度に応じて、A A (90~100点)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、F (59点以下) で評価する。なお、授業に取り組む姿勢や試験結果によっては、再試を行うこともある。						
	基準等	学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。					
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー（研究室422） ・オンデマンドでの質問は随時受けます。（メール等） ・課題シートは次の時間に評価して、コメント付けて返却する。 ・期末試験の返却については、担任を通じて返却します。 						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	免許資格関連：教職（小学校教員免許、幼稚園免許）保育士資格 必修科目、卒業必修科目						
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・長年にわたる教育現場における様々な経験を活かし、教育課程の意義、教育マネジメントを行う意義等について講義を行います。 ・自分が小学校や幼稚園の教諭になったときのことをイメージして積極的に授業に臨むこと。 ・遠隔授業になる場合もあります。その場合は、「オンデマンド授業」として、moodle上に読み物や動画の学修資料を用意し、それに対する課題シートに解答・回答し、提出することになります。 						
ナパング	DID-1-05-020						

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5A)240334	算数科指導法 [2AB]		三 宮 知 恭					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[23] 初等教育科		2年次	前期	2			
授業概要	基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場を想定した授業設計や学習指導を行う方法を身に付ける。 学習指導案の意義と作成について学ぶとともに、各学年の児童対象を想定して具体的な教材をもとにした「板書指導案」の作成と学生相互の模擬授業を行う。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	学習指導要領に示された算数科の目標や内容を理解する。		○				
	2	基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。				○		
	3	学習指導案の書き方を理解し、学習指導要領を読み取り、一単元の学習計画と1時間の展開案を完成できるようになる。						○
	4	自分の立てた「板書計画」を基に、模擬授業を行うことができる。					○	
5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	算数科の歴史的背景と目標について 算数科教育で育てたい力（期待されている教育効果） 学習指導要領「算数」のねらい プログラミング学習について（紹介）	学習指導要領「算数」総則に目を通す。 授業後に、再度、総則を読み込む。(0.5h)					
	2	学習指導案の意義、書き方 第5学年の一単元の学習指導案について 1時間（5年生図形）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	学習指導案について理解し、作成の計画を立てる。(7月末の提出に向けて)(1.0h)					
	3	第1学年の一単元の学習指導案について 1時間（1年生数と式領域）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	授業で説明のあった「板書案」作成を参考に して、授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(1.0h)					
	4	第1学年の一単元の学習指導案について 1時間（1年生図形領域）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。 授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(次時に発表)(1.0h)					
	5	第2学年の一単元の学習指導案について 1時間（2年生数と式）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。 授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(次時に発表)(1.0h)					
	6	第2学年の一単元の学習指導案について 1時間（2年生図形）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。 授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(次時に発表)(1.0h)					
	7	第3学年の一単元の学習指導案について 1時間（3年生数と式）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。 授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(次時に発表)(1.0h)					
	8	第3学年の一単元の学習指導案について 1時間（3年生図形）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）、指 導案の書き方（単元全体）、展開案（簡易指導案）の作成について理解す る	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。 授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(次時に発表)(1.0h)					
	9	第4学年の一単元の学習指導案について 1時間（3年生測定）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。 授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(次時に発表)(1.0h)					
	10	第4学年の一単元の学習指導案について 1時間（4年生図形）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。 授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(次時に発表)(1.0h)					
	11	第4.5.6学年の一単元の学習指導案について 1時間（変化と関係）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。 授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(次時に発表)(1.0h)					
12	第5学年の一単元の学習指導案について 1時間（5年生図形）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。 授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(次時に発表)(1.0h)						

授業計画	13	第5学年の一単元の学習指導案について 1時間（5年生測定）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。 授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(次時に発表)(1.0h)					
	14	第6学年の一単元の学習指導案について 1時間（6年生図形）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ）	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。 授業で提示された「教材」についての 板書案を練り直す。(次時に発表)(1.0h)					
	15	第2～6学年の一単元の学習指導案について 1時間（データの活用）の板書指導案（板書計画を中心の授業の流れ） 講義のまとめ	授業での友達の「板書案」を参考に して、自分の作成した板書案を見直す。(0.5h) 自分の考えた学習指導案と板書案を 完成し、レポートとして提出する。 (レポート作成全体合計6.0hほど 想定)					
履修条件や関連する科目等	特になし							
テキスト	小学校学習指導要領解説 算数編（平成29年7月 文部科学省）							
参考資料	特になし（授業において随時紹介する）							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標1				15%		5%	
	到達目標2				25%		5%	
	到達目標3				15%		5%	
	到達目標4				5%	20%	5%	
到達目標5								
自由記述欄	・上記の目標に対して、各提出物等について毎回、学修の到達度に応じて、AA(90～100点)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、F(59点以下)で評価する。 なお、授業に取り組む姿勢や試験結果によっては、再試を行うこともある。							
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90～100点)、A(80～89点)、B(70～79点)、C(60～69点)、F(59点以下)で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	授業中、授業後やオフィスアワーなど必要に応じて随時行う。研究室は25号館422号室。							
法令等に定められた授業科目に含める必要事項	特になし							
学生へのメッセージ	・長年にわたる教育現場における様々な経験を活かし、基礎的な学習指導理論と授業設計等について講義を行います。毎時間、資料提示した問題を授業に組み立てる板書計画を作成し、時事解説をしていきます。グループワークで互いの板書計画を学び合います。1年生から6年生の各領域をバランスよく取り扱うので、毎時間力をつけていきましょう。 ・自分が小学校や幼稚園の教諭になったときのことをイメージして積極的に授業に臨むこと。 ・遠隔授業になる場合もあります。その場合は、「オンデマンド授業」として、moodle上に読み物や動画の学修資料を用意し、それに対する課題シートに解答・回答し、提出することになります。							
ナカゲ	SUP-2-09-020							

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AJ240180	教育原理 [1A]		高 橋 俊 二					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 初等教育科		1年次	後期	2			
授業概要	教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたかを理解する。(グループワーク、グループディスカッション) 遠隔で授業を実施する場合、授業時間の初めにGメールで課題を送付、授業終了前にGメールで課題提出。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因の関係を理解することができる。		○				
	2	教育の歴史に関する基礎知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解することができる。		○				
	3	教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解することができる。			○			
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	講義の概要説明：「教育原理」学習の目的と授業計画（教育とは何か）	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	2	教育の意義と目的：教育の意味と教育の目的（人間とは何か）	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	3	教育の制度上の規定：「日本国憲法」「教育基本法」等	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	4	教育の役割：人間形成と学校・家庭・地域社会の関連性	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	5	教育の思想と歴史の変遷（1）諸外国の教育思想史	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	6	教育の思想と歴史の変遷（2）諸外国の教育思想史	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	7	教育の思想と歴史の変遷（3）日本の教育思想史	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	8	教育の思想と歴史の変遷（4）日本の教育思想史	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	9	教育の制度：学校制度、教育法規、教育制度	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	10	教育内容と教育課程：教育内容の構成、教育課程と計画	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	11	教育の実践（1）：教育方法、評価、教育実践の多様な取り組み	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	12	教育の実践（2）：教育実践の多様な取り組み	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	13	現在社会と教育課題：問題行動、不登校、いじめ、虐待等	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	14	現代社会と教育課題：学力・体力の向上、豊かな心の育成等	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	15	まとめ：今、求められる教師像	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
履修条件や関連する科目等	特になし							
テキスト	プリントを授業の時に配付する。							
参考文献	特になし							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1	20%		10%			
	到達目標 2	20%		10%		10%	
	到達目標 3	20%				10%	
	到達目標 4						
	到達目標 5						
評価方法 (自由記述欄)	期末試験（60%）、期末レポート（20%）授業への取り組み姿勢・課題等の提出（20%）で評価する。再試は実施する。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。						
学習相談及び学習成果の フィードバック	○答案・レポートは成績発表後のオフィスアワーに研究室で返却する。 ○オフィスアワー火曜日・金曜日の16:20～ 研究室 1号館3階133						
法令等に定められた授業 科目に含まれる必要事項	幼稚園・小学校二種免許状取得のための必修科目：教育の基礎理論に関する科目						
学生へのメッセージ その他	毎回の授業で課題を出します。しっかりと授業に集中すること。 小学校教員・指導主事の経験を活かし、授業では、教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学びます。						
ナカソグ	PED-1-01-020						

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AJ240336	生活科指導法 [2AB]		高 橋 俊 二					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[23] 初等教育科		2年次	前期	2			
授業概要	生活科の意義、目標や内容を踏まえて、単元の構想・指導計画の立て方、活動の展開における手だてや留意点等について理解して作成する。(指導案作成・プレゼンテーション) 遠隔で授業を実施する場合、授業時間の初めにGメールで課題を送付、授業終了前にGメールで課題提出。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。		○				
	2	基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。				○		
	3							
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	生活科の意義について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	2	生活科の目標・内容について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	3	生活科の単元構成について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	4	生活科の指導計画(第1学年)について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	5	生活科の単元構成(児童の実態・傾向)について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	6	生活科の指導計画(第2学年)について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	7	生活科授業の実践事例研究(第1学年・第2学年)について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	8	生活科授業の実践事例研究(評価)について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	9	学習指導案の作成(教材研究、活動)について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	10	学習指導案の作成(指導計画)について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	11	隔週指導案と授業実践について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	12	学習指導案の作成(本時案)について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	13	学習指導案の作成(設定理由)について	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	14	学習指導案の改善について(模擬授業)	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
	15	単元構成、学習指導案作成の作成手順のまとめ	配付したプリントを熟読する(0.5h)					
履修条件や関連する科目等	特になし							
教科書	小学校学習指導要領解説 生活編(平成29年7月 文部科学省) 134円+税							
参考資料	適宜資料を配付する。							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1	30%		10%		10%	
	到達目標 2	30%		10%		10%	
	到達目標 3						
	到達目標 4						
	到達目標 5						
評価方法(自由記述欄)	期末テスト(60%)、課題レポート(20%)、授業態度(20%) 再試験は実施する。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	・オフィスアワー火曜日・金曜日の16:20~ 研究室1号館3階133 ・試験の解答等の返却は、授業の中で指示する。						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	小学校二種免許状取得のための選択科目: 教科及び教科の指導法に関する科目						
学生へのメッセージその他	日頃から、生き物や植物等に関心を持ち、子どもがどんなところに目をつけてくるか考えながら、授業に臨むことを期待する。 小学校教員・指導主事の経験を活かし、授業では、生活科の意義、目標や内容を踏まえて、指導案の作成の仕方を学びます。						
ナカソグ	SUP-2-10-020						

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AJ240176	教職概論 [1B]		檜 崎 信 浩					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 初等教育科		1年次	前期	2			
授業概要	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解するとともに、現代の学校教育に関する社会的事項の基礎的な知識とそれに関連する課題、地域等との連携・協働、安全への対応について理解する。また、保育者の役割、保育士の制度的な位置づけ、専門性、資質向上について理解し、もって初等教育に携わる教師・保育士についての理解を深める。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	我が国における今日の学校教育・保育や教職・保育職の社会的意義を理解するとともに、今日の教員・保育者に求められる役割や資質能力を理解する。		○				
	2	教員・保育士の職務内容や課せられる義務を理解する。				○		
	3	学校・保育所が内外の専門家と連携・分担する必要性について理解する。				○		
	4	社会の状況を理解しその変化が学校教育にもたらす影響と教育政策の動向を理解するとともに、現代公教育制度の基礎的知識と内在する課題を理解する。		○				
	5	学校・保育所と地域との連携・協働について理解するとともに、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。				○		
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	教育・保育の理念と目的	復習、課題 (1h)					
	2	教職・保育職の意義と職業的特徴	復習、課題 (1h)					
	3	教員・保育士の職務内容① 小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針を学ぶ	復習、課題 (1h)					
	4	教員・保育士の職務内容② 指導や保育以外の職務、教員・保育士の一日を追う	復習、課題 (1h)					
	5	教員・保育士の服務、権利と身分保障	復習、課題 (1h)					
	6	教員・保育士のライフステージ 研修とキャリア形成	復習、課題 (1h)					
	7	求められる組織的対応 チーム学校運営への対応	復習、課題 (1h)					
	8	家庭との連携や保護者への支援、関係者・関係機関との連携・協働	復習、課題 (1h)					
	9	教育・保育の計画と実践、評価	復習、課題 (1h)					
	10	学校・保育所を巡るさまざまな課題と対応	復習、課題 (1h)					
	11	進む教育改革 近年の教育政策を理解する	復習、課題 (1h)					
	12	諸外国の教育・保育事情や教育改革	復習、課題 (1h)					
	13	地域との連携・協働	復習、課題 (1h)					
	14	学校・保育所の安全への対応 事件・事故・災害から子どもたちを守るために	復習、課題 (1h)					
	15	まとめ 次代を担う教師・保育士として活躍するために	復習、課題 (1h)					
履修条件や関連する科目等	特になし							
テキスト	プリントを使用します。(事前ダウンロード又は授業時配布)							
参考書	特になし							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 2	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 3	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 4	10%	3%	3%		4%	
	到達目標 5	10%	3%	3%		4%	
自由記述方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験50%、小テスト15%、課題・レポート15%、授業取組み姿勢20%で評価します。 ・この科目は、再試を実施します。 						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・前期オフィスアワー：月曜日2限、水曜日2限 研究室：24号館501 ・質問や相談等は、オフィスアワー以外でも在室時は対応します。できるだけメールで予約してください。 ・小テスト及び課題は、moodle又は授業の中で返却コメントします。 ・期末試験の答案返却の方法・日時については、授業の中で指示します。 						
法令等に定められた授業科目に定める必要事項	この授業は、教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」の「教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む。)」及び「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」並びに児童福祉法施行規則に基づく厚生労働大臣告示に定められた「保育者論(講義)」に該当し、幼稚園教諭2種、小学校教諭2種及び保育士資格取得のための必修科目です。						
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・教育委員会における勤務経験を活かして、より実践的な授業を行います。 ・毎回の授業で、出席、小テスト、ミニッツペーパー、課題にmoodleを使用するため、スマートフォン、パソコン等を持参してください。(ICT活用) ・教育・保育に関する時事問題に関心を持つことが大切です。日々、新聞や教育雑誌に目を通しましょう。 ・毎回の授業の中で、輪番による発表「教育時事解説」を課します。 ・欠席(公欠を含む)の場合 授業の資料(パワーポイント等)は、moodleからダウンロードしてください。(ICT活用) ミニッツペーパーの提出は不要ですが、課題の提出は求めます。 ・この授業は対面授業を基本としていますが、感染症防止等のため遠隔授業になる場合があります。 						
ナ/ナ/ナ/ナ	DID-1-01-020						

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
T1AJ240109	法学（日本国憲法）[1A]				檜 崎 信 浩			
科目区分	対象学科			対象学年	開講期間	単位数		
<教養科目>	[24] 初等教育科			1年次	後期	2		
授業概要	日本国憲法が掲げる理想を理解し、その理想の実現を図るためには何をなすべきかを考えることは、次代の日本を担う子供達への教育を目指す者の使命である。この授業では、憲法の成り立ちから、前文や条文を読みながらわかりやすく説明し、憲法への理解をすすめる。また、日常生活と憲法や法律の関連を具体的にイメージできるよう時事問題を適宜とりあげるとともに、教職・保育職を志す者が日本国憲法を学ぶ意味を理解し、それを尊重する態度を身に付ける。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	日本国憲法についての基本的な知識を身に付ける。	○					
	2	日本国憲法や法律と、日常生活の関連をイメージする。						○
	3	教職・保育職を志す者が日本国憲法を学ぶ意味を理解し、それを尊重する態度を身に付ける。			○			
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	憲法とは何か	復習、課題（1h）					
	2	日本国憲法の成立過程	復習、課題（1h）					
	3	日本国憲法の前文	復習、課題（1h）					
	4	国民主権と天皇制	復習、課題（1h）					
	5	日本の平和主義① 平和主義の原理	復習、課題（1h）					
	6	日本の平和主義② 第9条と戦争放棄	復習、課題（1h）					
	7	基本的人権	復習、課題（1h）					
	8	法の下での平等	復習、課題（1h）					
	9	自由権	復習、課題（1h）					
	10	社会権	復習、課題（1h）					
	11	国会と立法	復習、課題（1h）					
	12	内閣と行政	復習、課題（1h）					
	13	裁判所と司法	復習、課題（1h）					
	14	地方自治	復習、課題（1h）					
	15	憲法改正と最高法規	復習、課題（1h）					
履修条件や関連する科目等	特になし							
教科書 (テキスト)	プリントを使用します。(事前ダウンロード又は授業時配布)							
参考書 (授業資料)	特になし							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取組み姿勢	その他	
	到達目標 1	50%	10%	5%		5%		
	到達目標 2			5%	5%	5%		
	到達目標 3			5%	5%	5%		
	到達目標 4							
	到達目標 5							
評価方法 (自由記述欄)	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験50%、小テスト10%、課題・レポート15%、発表10%、授業の取組み姿勢15%で評価します。 ・この科目は、再試を実施します。 							

評価 基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。
学習相談及び学習成果の フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・後期オフィスアワー：月曜日1限、金曜日2限 研究室：24号館501 ・質問や相談等は、オフィスアワー以外でも在室時に対応します。できるだけメールで予約してください。 ・小テスト及び課題は、moodle又は授業の中で返却コメントします。 ・期末試験の答案返却の方法・日時については、授業の中で指示します。
法令等に定められた授業科目に定める必要事項	この授業は、教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」の「日本国憲法」及び児童福祉法施行規則に基づく厚生労働大臣告示に定められた「教養科目（外国語、体育以外の科目）」に該当し、幼稚園教諭2種、小学校教諭2種取得のための必修科目、保育士資格取得のための選択科目です。
学生へのメッセージ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校及び教育委員会での勤務経験を活かして、教育の実践者の立場から日本国憲法を見つめ、より実践的な授業を行います。 ・毎回の授業で、出席、小テスト、ミニツッペーパー、課題にmoodleを使用するため、スマートフォン、パソコン等を持参してください。(ICT活用) ・欠席（公欠を含む）の場合 授業の資料（パワーポイント等）は、moodleからダウンロードしてください。(ICT活用) ミニツッペーパーの提出は不要ですが、課題の提出は求めます。 ・この授業は対面授業を基本としていますが、感染症防止等のため遠隔授業になる場合があります。
ナカワグ	LAW-0-01-700

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名				
T5A)240163	国語（書写を含む）[1AB]		古 川 元 視				
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数		
<専門科目>	[24] 初等教育科		1年次	後期	2		
授業概要	小学校国語科学習指導要領について学ぶ。また、小学校国語科の教材に関連した専門的知識・技能を身に付ける。アクティブ・ラーニング型授業を行う。遠隔授業をmoodle（期間を決めて）やZOOM（オンタイムで）を用いて実施する場合は、事前にメールで連絡する。						
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力
	1	小学校国語科の学習指導要領の目標や内容等を理解している。		○			
	2	小学校国語科の言語活動を理解している。		○			
	3	書写の実技を行い、留意点を理解している。					○
	4						
5							
到達目標	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間				
	1	小学校学習指導要領の目次を理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション) 書写の実技をする。	学習指導要領を読む。書写の実技をする。 (復習) 1時間				
	2	小学校学習指導要領の国語科を概観する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション)	学習指導要領を読む。書写の実技をする。 (復習) 1時間				
	3	小学校学習指導要領解説国語科の目標を理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	学習指導要領をまとめる。書写の実技をする。 (予習) 1時間				
	4	小学校学習指導要領国語科の内容を理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	「話すこと・聞くこと」の学習指導要領をまとめる。書写の実技をする。(予習) 1時間				
	5	「話すこと・聞くこと」の指導上の留意点・評価を理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	「書くこと」の学習指導要領を読む。 (予習) 1時間				
	6	「書くこと」の指導上の留意点・評価を理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	「読むこと」の学習指導要領をまとめる。 (予習) 1時間				
	7	「読むこと」(説明文)の指導上の留意点・評価を理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	「読むこと」の学習指導要領をまとめる。 (予習) 1時間				
	8	「読むこと」(物語文)の指導上の留意点・評価を理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	「読むこと」の学習指導要領をまとめる。 (予習) 1時間				
	9	「読むこと」の知識シートを作成する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	知識シートを作成する。(復習) 1時間				
	10	「読むこと」の知識シートの推敲をする。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	知識シートを修正する。(復習) 1時間				
	11	「読むこと」の知識シートを完成する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	知識シートを完成する。(復習) 1時間				
	12	「書くこと」の言語活動のモデルを分析する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	言語活動のモデルを探す。(予習) 1時間				
	13	「書くこと」の言語活動をする。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	言語活動を作成する。(復習) 1時間				
	14	「書くこと」の言語活動を完成する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	言語活動を完成する。				
15	小学校学習指導要領解説編国語科を確認して、今までのワークシートなどを振り返り、身に付いた力を確認する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション, 反転授業)	今までのポートフォリオを整理する。 (予習) 1時間					
履修条件や関連する科目等	特になし						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領（平成29年度告示）文部科学省，217円＋税 ・小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編（文部科学省：東洋館出版社）平成30年，162円＋税 ・読書活動でアクティブに読む力を育てる！小学校国語科言語活動アイデア&ワーク（井上一郎編/古川元視著：明治図書），2015年，2,260円＋税 ・国語科教育の基礎・基本 教え方・学び方 ポイント&シート 1読むこと，2「書くこと，話すこと・聞くこと（井上一郎著：明治図書），2021年，2360円＋税 						

授業資料 (参考書)	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングをサポートする！学校図書館活用プロジェクト掲示ポスター &ポイントシート事典（井上一郎編著/古川元視著：明治図書），2017年，2,860円＋税 ・思考力・読解力アップの新空間！学校図書館改造プロジェクト 図書館フル活用の教科別授業アイデア20（井上一郎編著：明治図書）2013年，2,400円＋税 ・誰もがつけたい説明力（井上一郎著：明治図書），2005年，2,160円＋税 ・読解力を育てる！小学校国語 定番教材の発問モデル 物語文編/説明文編（井上一郎編著：明治図書）2015年，2,460円＋税 								
	評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
		到達目標 1				10%	10%	10%	
		到達目標 2				20%	20%	10%	
		到達目標 3				10%		10%	
		到達目標 4							
到達目標 5									
自由記述欄 (評価方法)									
評価等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。								
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相談はオフィスアワー（詳細には後日連絡する）で受ける。(24号館5階509研究室) ・課題，レポートは授業の中で返却する。 								
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	教科に関する専門的事項								
学生へのメッセージ (その他)	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科はすべての教科の基盤となる重要な教科であり，育成すべき言語能力をよく理解するとともに，自らもその言語能力を習得するように努めること。 ・教育現場で国語の授業を行ったり，指導したりしてきたことを活かし，授業では具体的な事例を交えて講義をする。 ・遅刻，授業中の私語，飲食，携帯メール等は一切認めない。 ・欠席は必ず連絡すること。 ・提出物や資料等は必ず提出して保管すること。 ・この授業科目は，遠隔授業の可能性がある。 ・ロイロノートを使用するので，ノートパソコンを持ってくること。 								
ナバング	SUP-1-02-020								

科目コード	科目名		担当教員名					
T5AJ240233	教育課程論 [1E]		石川 照 代					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 初等教育科		1年次	後期	2			
授業種 類 編 制 型	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の内容を基準として、「教育課程」の意義と教育実践に即した編成の方法を理解するとともに、各学校園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性について理解する。更に、具体的なテーマを元に、年間計画の立案から保育指導案に落とし込むまでのプロセスを、グループ毎に協議しながら作成し、「模擬保育」と「模擬保護者会」によって実践的な能力を身に付ける。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	学校教育や幼児教育において、教育課程（全体の計画）が有する役割・機能・意義を、テキストの読解を中心に、観察実習のイメージと繋ぎながら理解する。		○				
	2	教育課程（全体の計画）編成の基本原則及び教育・保育の実践に即した教育課程（全体の計画）編成の方法を、他園のモデル案を検討することにより理解する。						○
	3	領域・内容・年齢をまたいでカリキュラム全体を把握し、マネジメントすることの意義と方法を「事例検討」を通して理解する。			○			
4	教育課程（全体の計画）のモデル案等をもとに、「年間計画」「日案」「保育指導案」を作成し、「模擬授業」までを実施することにより、カリキュラム具体化の道筋について理解する。				○			
5								
授業 計 画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	オリエンテーション ・学修の記録（ポートフォリオ）作成の方法について ・教育課程とは何かについて	・ポートフォリオ①（表紙）と②～③のスライドを準備する（1h）					
	2	何故、教育課程を編成する必要があるのか理解する ・教育関連法規の視点について ・教育課程編成の歴史について	・関連ページを通読してくる（0.25h） ・ポートフォリオ②の作成（0.5h）					
	3	平成29年告示の教育・保育に関わる法規の改訂の主旨を理解する ・幼児教育の3指針の比較について ・幼児教育の施設園の歴史的背景について ・小学校学習指導要領改訂の要点について	・関連ページを通読してくる（0.25h） ・ポートフォリオ③の作成（0.5h）					
	4	幼児期に育みたい「資質・能力」について理解する ・「5領域」「10の姿」との関連について ・「生きる力」の育成と、貫く「3つの資質・能力」との関連について	・関連ページを通読してくる（0.25h） ・ポートフォリオ④の作成（0.5h）					
	5	「幼保小の架け橋期の教育の充実」について理解する ・「小1プロブレム」の様相と「先取り学習」の実態について ・先進校園での「架け橋プログラム」の実践事例について	・関連ページを通読してくる（0.25h） ・ポートフォリオ⑤の作成（0.5h）					
	6	保育・幼稚園教育現場での教育課程（全体の計画）について理解する ・園の教育目標（子ども像）について ・年間計画・学期案・月案・週案・日案の作成について	・関連ページを通読してくる（0.25h） ・ポートフォリオ⑥の作成（0.5h）					
	7	幼児理解に基づいた評価とカリキュラム・マネジメントについて理解する ・カリキュラム・マネジメントの必要性と具体的方法について ・幼児理解を助ける「保育評価」の在り方について	・関連ページを通読してくる（0.25h） ・ポートフォリオ⑦の作成（0.5h）					
	8	「教育課程論」の前半（理論編）についてまとめる ・前半の学修記録（ポートフォリオ）のまとめと修正について ・「小テスト」による理解度の確認	・前半の学修内容についての小テストに備える（0.25h） ・ポートフォリオ（①～⑦）の整理と修正（0.5h）					
	9	教育課程に反映すべき、教育現場に求められている今日的な課題を調べる ・各課題とその背景について ・取り組みの優先順位を考える（Gワーク「ダイヤモンドランキング」）	・教育を巡る諸問題について調べてくる（0.5h） ・ポートフォリオ⑧の作成（0.5h）					
	10	「地域に開かれた教育課程」について理解する ・地域や保護者との連携のあり方について ・地域と連携した「防災教育」のカリキュラム・デザインについて	・「防災」について調べてくる（0.5h） ・ポートフォリオ⑨の作成（0.5h）					
	11	「防災教育」のカリキュラム・マネジメントについて考える ・ねらいの設定と内容の配列、使用する教材を選定について ・「年間計画（全体の計画）」に位置づけについて	・「防災教育」について調べてくる（0.25h） ・ポートフォリオ⑩の作成（0.5h）					
	12	テーマに沿った保護者会を想定し、防災教育をメインにした「保育参観」と「保護者会」を企画する ・参観日の「日案」の立案について（個人ワーク） ・設定保育の「保育指導案」の立案について（グループワーク）	・防災教育をねらった「保育案」のアイデアを収集してくる（0.25h） ・ポートフォリオ⑪の作成（0.5h）					
13	保護者参観日を想定した「模擬保育と模擬保護者会」の準備をする ・設定保育の「保育指導案」の立案について（グループワーク） ・教材の作成（グループワーク）	・教材の作成に必要なものや情報を収集してくる（0.25h） ・ポートフォリオ⑫の付加（0.5h）						

授業 計 画	14	保護者参観日を想定した「模擬保育と模擬保護者会」をロールプレイで発表する。（1～4グループの発表） ・模擬「保護者参観日」をグループ発表する ・自グループの振り返りと他グループからの学びについて（まとめ）	・発表の準備や練習をしてくる（0.25h） ・ポートフォリオ⑬の作成（0.5h）					
	15	保護者参観日を想定した「模擬保育と模擬保護者会」をロールプレイで発表する。（5～8グループの発表） ・模擬「保護者参観日」をグループ発表する ・自グループの振り返りと他グループからの学びについて（まとめ）	・発表の準備や練習をしてくる（0.25h） ・ポートフォリオ⑭の付加（0.5h）→12枚のスライドをロイロで提出する					
履修 条件 や 関 連 す る 科 目 等	小学校学習指導要領、3要領（幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領）や教育関係法規に関する科目							
テ キ ス ト	・教育課程論（2018年3月30日 光生館）							
参 考 書 （ 授 業 資 料）	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・その他、必要に応じて紹介する。 							
評 価 方 法 と そ の 割 合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1			10%	20%			
	到達目標 2			10%	20%			
	到達目標 3			10%	20%			
	到達目標 4					5%	5%	
到達目標 5								
評 価 方 法 （ 自 由 記 述 欄）	前半の知識・理解が中心となる学修内容については、第8回に「小テスト」を行います。また、授業全体の学修のあしあとを「ポートフォリオ」として記録に残してもらい評価の対象とします。「ポートフォリオ」は、ロイロノートのスライドで作成してもらいます。							
評 価 等 基 準	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学 習 相 談 及 び 学 習 成 果 の バ ッ ク	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーは1回目の講義で伝えます。 ・メールでの質問は随時受けます。 ・小テスト等は、次の講義の中でコメントをつけながら返却します。 							
法 令 等 に よ り 必 ず 履 修 す る 必 要 事 項	免許資格関連：教職（小学校教員免許、幼稚園免許）保育士資格 必修科目、卒業必修科目							
学 生 の メ ッ セ ー ジ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・長年にわたる教育現場における様々な経験を活かし、教育課程の意義、教育マネジメントを行う意義等について講義を行います。 ・自分が小学校や幼稚園の教諭になったときのことをイメージして積極的に授業に臨みましょう。 ※やむを得ず遠隔授業になる場合は、「オンデマンド授業」として、moodle上に読み物や動画の学修資料を用意し、それに対する課題シートに解答・回答し、提出することになります。							
ナ ン バ ー	DID-1-05-020							

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AJ240206	子どもの理解と支援の方法 [2D]		石 川 照 代					
科目区分	対象学科	対象学年	開講期間	単位数				
<専門科目>	[23] 初等教育科	2年次	後期	1				
授業概要	保育者は、幼児の成長発達を促すため、幼児の心身の発達段階の諸相について理解した上で、子ども一人ひとりの姿をよく観察し、そのニーズを的確に把握し、効果的に支援することが何よりも大事である。子どもに対する適切な理解と支援は、幼児に対する正しい知識と支援のスキルがあってこそできることである。本授業では、このことを踏まえ、幼児理解と支援の方法を、教育実習で得た具体的な事例を元に、ケース・スタディやロールプレイ等の手法によって理解を深め、幼児理解の総合的な資質・能力を高めていく。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	幼児理解の理論と方法について、ディスカッションしながら理解する		○				
	2	幼児理解を土台とした援助方法について、事例研究を通して理解する			○			
	3	幼児理解のための諸要因と支援について、教具制作などを通して理解する						○
	4							
5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	幼稚園教育と幼児理解 (第1章) ・ 幼児理解をすることの意味 ・ 保育の中の幼児理解の意義を理解する	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	2	「理解する」とは (第2章) ・ 人を理解する方法 ・ 子どもを理解すること	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	3	子どもの発達や学びの理解 (第3章) ・ 幼児期の教育における幼児理解の特質 ・ 子どもの具体的な生活や遊びの場面における幼児理解の意義	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	4	遊びと幼児理解 (第4章) ・ 幼児教育における遊び ・ 遊びの形態と子どもの経験	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	5	幼児理解を深める保育者の基本姿勢 (第5章) ・ 子ども理解を深めるために ・ 子どもの立場に立って温かな関係を作る	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	6	幼保小をつなぐ理解—幼児理解と児童理解 (第6章) ・ 幼保小接続の意義 ・ 幼稚園教育要領等における幼保小接続の位置づけ	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	7	幼児理解の目的と方法 (第7章) ・ 幼児理解の2つの考え方 ・ 保育における学びや発達の理解と記録	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	8	保育実践のための記録 (第8章) ・ 子どもの生活と遊びの様子や学びの内容を捉える記録 ・ 集団の育ちを捉える記録 ・ 個人ワーク<記録の作成>	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	9	クラス集団の理解と指導 (第9章) ・ 幼稚園や保育所等におけるクラス集団 ・ 子どもにとってのクラス集団 ・ グループワーク<事例研究・シェア>	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	10	保育者の自己理解と保育の改善 (第10章) ・ 自分の保育観はどのように出来上がるのか ・ 保育者の自己理解と保育の改善 ・ グループワーク<事例研究・シェア>	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	11	幼児のつまずきの理解とその対応 (第11章) ・ 子どもにとって「つまずき」とは ・ 「つまずき」を保育者はどうとらえればよいか ・ グループワーク<事例研究・シェア>	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	12	幼児理解を磨く場としての園内研修 (第12章) ・ 資質向上の場としての園内研修 ・ 様々な園内研修の進め方 ・ グループワーク<事例研究・シェア>	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
	13	事例を通して幼児理解とその対応を学ぶ (第14章) ・ 支援のための教具の製作	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 教具製作を進めておく (1.5h)					
14	事例を通して幼児理解とその対応を学ぶ ・ 支援のための教具の製作 ・ 小テスト	教具製作を進めておく (1.5h)						

授業計画	15	保護者との連携と理解 (第13章) ・ 家庭との連携 ・ 園における子育て支援 ・ 授業のまとめ	テキストの関連する章を通読してくる (0.25h) 授業の感想をロイロノートで提出する (0.5h)					
履修条件や関連する科目等	「幼児と言葉」「幼児と環境」「幼児と人間関係」「幼児と健康」「幼児と表現」 保育内容 I～V							
教科書	幼児理解の理論と方法 神長美津子ほか編著 (光生館：1,800円+税)							
参考資料	随時指示する							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1			20%	10%		10%	
	到達目標 2			20%	10%		10%	
	到達目標 3			10%	10%			
	到達目標 4							
	到達目標 5							
評価方法 (自由記述欄)	授業の感想の提出も評価の対象です。感想は、全員でシェアすることがあります。							
評価基準等	・ 学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
フィードバック	・ オフィスアワーは、1回目の授業でお知らせします ・ 小テスト等は、基本的に翌週の授業で返却・解説します。							
科目に定める必要事項	幼稚園免許選択：教職に関する科目「保育内容の理解と方法」							
学生へのメッセージ	保育の基本である幼児理解について学びます。事例研修や実践演習を含んだグループワーク等を取り入れ、具体的に理解する機会を設けていきます。主体的な授業への参加を期待します。長年にわたり教育現場に勤務した経験を活かし、実際の場面や姿をもとに学んでいきます。保育に活かせる学習をしましょう。 ※やむを得ず遠隔授業になる場合は、「オンデマンド授業」として、moodle上に読み物や動画の学修資料を用意し、それに対する課題シートに解答・回答し、提出することになります。							
ナリフ	DID-1-02-020							

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AJ240173	介護体験指導 [1ABCDE]		松 崎 優					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 初等教育科		1年次	通年	1			
授業概要	介護等体験とは、小中学校教諭の普通免許状の授与を受けようとする者が、「個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識」を深めることにより、義務教育に従事する教員としての資質向上と義務教育の一層の充実を期するために、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの人々たちとの交流等の体験をすることである。本講義では、この介護等体験の事前及び事後学習として、介護等体験の趣旨が達成されるよう、講義やグループワーク等を通じて基本的な知識や技能を学ぶ。なお、コロナ等の関係で対面授業が困難な場合は、Moodleでのオンライン授業で対応する。その場合は、グループワークができないので、オンライン上での質問対応等、別の方法で対応する。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	介護等体験について、法令等に基づき理解をした上で、具体的に説明することができる。		○				
	2	特別支援学校における各障害種別の教育のありかたについて理解し、発表することができる。					○	
	3	社会福祉施設における障害者、高齢者等の介護・介助について理解し、発表することができる。				○		
	4							
5								
到達目標	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	本授業の概要説明と介護等体験申込書の作成	授業の復習 1h					
	2	介護等体験の意義	授業の復習 1h					
	3	社会福祉とは何か ～社会福祉制度の現状と課題	授業の復習 1h					
	4	社会福祉施設の概要 ～高齢者の施設、障がい者施設	授業の復習 1h					
	5	特別支援教育の概要～知的障害、情緒障害、肢体不自由、病弱～	授業の復習 1h					
	6	インクルーシブ教育システム・合理的配慮	授業の復習 1h 自宅学習ワークシートの作成 1h					
	7	(実習前指導) 社会福祉施設における介護等体験へ向けて (実習施設調べ)	授業の復習 1h と 実習準備 1h					
	8	(実習前指導) 社会福祉施設における介護等体験へ向けて (実習の心構え)	授業の復習 1h と 実習準備 1h					
	9	(直前指導) 社会福祉施設における介護等体験へ向けて (服装、髪型、諸注意)	授業の復習 1h と 実習準備 1h					
	10	(実習前指導・直前指導) 各障がい種別に応じた特別支援学校の教育と子どもとのかかわり方～知的障害、情緒障害～	授業の復習 1h					
	11	(実習前指導・直前指導) 各障がい種別に応じた特別支援学校の教育と子どもとのかかわり方～肢体不自由、病弱～	授業の復習 1h					
	12	(実習前指導・事後指導) 特別支援学校における介護等体験へ向けて (実習の心構え)・振り返り	授業の復習 1h					
	13	施設実習における介護等体験発表①	授業の復習 1h グループワークの発表の準備 1h					
	14	特別支援学校における介護等体験発表②	授業の復習 1h グループワークの発表の準備 1h					
15	介護等体験実習・介護等体験実習指導に関する全体のまとめ	授業の復習 1h						
履修条件や関連する科目等	介護体験実習を履修するためには、本講義を履修しなければならない。							
教科書	学外実習ハンドブック (小学校・介護等体験編)；実習費で徴収済み							
参考資料	特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア (ジアース教育新社；1,200円 (税別)) よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック第5版 (全国社会福祉協議会) 指定された社会福祉施設や特別支援学校のHPや関連情報を各自で見事前学習しておくことを望みます。 次に掲げる資料は文部科学省HPに公開しています。 ・特別支援学校 教育要領・学習指導要領 (平成29年告示) ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編 (幼稚園・小学部・中学部) 平成30年3月30日初版発行 開隆堂出版株式会社 343円+税							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1			30%		5%	
	到達目標 2			20%	8%	5%	
	到達目標 3			20%	7%	5%	
	到達目標 4						
到達目標 5							
自由記述欄	ワークシートによる理解度の評価：45% 授業中の取り組み姿勢や態度：15% グループワーク及び発表内容の評価：15% 実習の振り返りシート：15% 自宅学習ワーク：10%						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	○授業で使用するパワーポイントはムードルに上げていますので学修資料として活用してください。 ○課題シートは授業終了時に提出をもって出席と判断します。また、シートは、次の授業内で返却します。 ○授業で疑問に思ったことや質問等あれば相談に応じますので、積極的に質問してください。						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	小学校教員免許状取得必修：教科または教職に関する科目						
学生へのメッセージ	これからの時代を生きる子どもを育てる教師をめざす皆さんには、特別支援教育の理解、特別支援学校と社会福祉施設での体験は非常に大切な経験になります。特別支援学校で長年勤務した経験に基づく具体的な成功事例や失敗事例等を提示しながら、皆さんが将来活用できる知識や技能等を楽しく学べるように工夫します。 なお、コロナ等の関係で、対面授業が困難な場合は、moodleでの遠隔授業で対応します。また、グループワークの場合、遠隔での質問対応等別の方法で対応します。						
ナバング	NED-3-01-030						

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AS240420	修了論文		大 田 亜 紀					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[23] 専攻科 初等教育専攻		2年次	通年	4			
授業概要	<p>学士課程教育に相当する4年間の学修成果の総まとめ科目として、教育における英語科教育を中心とした教科教育等に関するテーマで修了論文を作成する科目である。授業は基本的には各自の進捗状況をグループディスカッション形式で報告し、おすすめ方は(1)先行研究を批判的に分析することによって各自のテーマを設定し、(2)そのテーマに対して適切な調査・分析方法を適用して結論を導き、(3)修了論文としてまとめる、の3つの段階とする。各段階で必要となる専門的な知識・技術については全体または個別に指導することとする。</p>							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	問題意識に基づいて、英語科教育をはじめ教科教育などの教育学に係るテーマを設定することができる		○				
	2	研究テーマに対して、先行研究や教育学の他の分野との関連を踏まえつつ、目的や意義について説明することができる		○				
	3	研究テーマに対して適切な分析、研究方法を用いて結論を導くことができる		○				
	4	研究結果を修了論文にまとめることができる					○	
	5	研究の遂行において、研究グループとの協力や調査協力者等への配慮をしながら、得られた結果を責任をもって公表することができる				○		
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	各自の研究テーマ及び研究計画の発表						
	2	各自の研究テーマに対する研究目的・研究の動機等の検討						
	3	各自の研究テーマに対する研究内容の検討						
	4	各自の研究テーマに対する研究方法・調査方法の検討						
	5	各自の研究テーマに対する検証方法の検討						
	6	修了論文第1回中間発表会						
	7	各自の研究テーマ及び研究計画の決定						
	8	先行研究・文献のまとめ(1)						
	9	先行研究・文献のまとめ(2)						
	10	調査・教育実践の内容作成(1)						
	11	調査・教育実践の内容作成(2)						
	12	調査・教育実践の内容検討(1)						
	13	調査・教育実践の内容検討(2)						
	14	調査・授業の実施(1)						
	15	調査・授業の実施(2)						
	16	調査・授業の実施(3)						
	17	研究結果検証・考察(1)						
	18	研究結果検証・考察(2)						
	19	研究結果検証・考察(3)						
	20	修了論文作成(1)						
	21	修了論文作成(2)						
	22	修了論文作成(3)						
	23	修了論文検討(1)						
	24	修了論文検討(2) ※修了論文提出						
	25	修了論文の修正 (専攻科内査読した修了論文の修正)						
	26	修了論文最終確認(修正)						
	27	修了論文発表会準備(1) プレゼンテーションの検討及び修正						
	28	修了論文発表会準備(2) プレゼンテーションの検討及び修正						
	29	修了論文発表会準備(3) (発表練習、スライド、配布資料)						
30	修了論文発表会							
履修条件や関連する科目等	「修了論文」の履修年度に修了見込であること。							

(テキスト)	教科書は特に指定しない。各自のテーマに基づいて文献検索を行い、文献購読を行う。							
(参考資料)	<p>参考文献としては、論文作成に係る次の文献とする。 ○論文の教室 レポートから卒論まで (日本放送出版協会; 1,120円 (税別)) ○大学生のためのレポート・論文術 (講談社現代新書; 720円 (税別)) ※小学校外国語教育関連 ○平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 外国語活動編 (明治図書) ○平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 外国語編 (明治図書) ○[小学校外国語活動・外国語科 研修ガイドブック] 文部科学省 ○すぐれた小学校英語授業 (研究社)</p>							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1				10%			
	到達目標2				10%		10%	
	到達目標3				10%	10%		
	到達目標4				20%			
	到達目標5				10%	10%	10%	
(自由記述欄)	<p>学位レポート及び修了論文：60% 調査・研究に対する姿勢及び意欲：20% 発表会におけるプレゼンテーション及び表現技術：20% 再試は実施しない。</p>							
評価等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	<p>進捗状況や相談については授業時間に限らず日常的に打合せを行う。 質問やディスカッション等はmoodleコース内に設置された掲示板やメールでも受け付ける。 オフィスアワー：月、木 14:40-16:10</p>							
法客等に定められた授業科目に含まれる授業	学士課程教育に相当する4年間の学修成果の総まとめ科目							
学生へのメッセージ	<p>長年にわたる教育現場における様々な経験を活かし、小学校英語科教育を中心とした教科教育等に関するテーマで修了論文を作成することについて講義を行います。 毎回、事前に調べた内容や考察の結果をスライドで発表しながら研究進捗や方向性について議論します。 各自のノートPCを必ず持参してください。(ICT活用) 授業前に十分な準備をしてディスカッションに備えましょう。 ※この授業科目は、新型コロナウイルス等の感染症の状況によっては遠隔授業で実施する場合があります。</p>							
ナパシ	GTW-4-01-030							

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AS240371	教科特講（算数Ⅰ）		三 宮 知 恭					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 専攻科 初等教育専攻		1年次	前期	2			
授業概要	算数科学習内容の深い理解を進める上で必要となる数学的な考え方、全領域の基本事項の確認と「数と計算」「図形」「データの活用」領域の指導内容の体系を含めて深く理解する。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	小学校算数の目標や内容を理解している。内容を用語や図式を使って表現できる。					○	
	2	算数の学習内容の深い理解（なぜそうなるのか、どのように発展するか）を理解している。		○				
	3	算数の学習内容についてその歴史的な考え方の流れなど自分で調べて、まとめることができる。						○
	4	算数の考え方を日常生活に生かしたり、問題解決に生かすことができる。				○		
5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	算数科の目標、数学的な考え方と身に付けたい学力について	学習指導要領「算数」の総則を読む。授業後に配布した算数の文科省研修資料を再度読んで、理解する。					
	2	指導内容の体系化と指導法の原理、小学校算数の「数と計算」「図形」領域の概要について	「数と計算」の学習内容の体系を理解しておく。					
	3	0の発見と指導、記数法、命数法、整数・分数・小数の集合の稠密性と包摂関係について	「数と計算」の学習内容の体系を理解しておく。					
	4	数の概念や性質、四則演算、演算記号	返却された前時のワークシートを再度、理解する。					
	5	小数について、小数の計算	返却された前時のワークシートを再度、理解する。					
	6	分数について、分数の計算	返却された前時のワークシートを再度、理解する。					
	7	「数と計算」の発展問題	返却された前時のワークシートを再度、理解する。					
	8	割合・比の値	返却された前時のワークシートを再度、理解する。					
	9	図形内容の体系・タングラムで学ぶ	返却された前時のワークシートを再度、理解する。					
	10	三角形の性質・分類・面積の求め方	返却された前時のワークシートを再度、理解する。					
	11	四角形の角や性質、多角形の角	返却された前時のワークシートを再度、理解する。					
	12	面積の性質を使って「等積変形、面積比」	返却された前時のワークシートを再度、理解する。					
	13	円や円周率、円の面積等について	返却された前時のワークシートを再度、理解する。					
	14	図形の発展的問題	返却された前時のワークシートを再度、理解する。					
15	まとめと後期「算数Ⅱ」へのつながり	返却された前時のワークシートを再度、理解する。						
履修条件や関連する科目等	初等教育科で「算数」を履修しておくことが望ましい							
テキスト	特になし							

（参考資料） 授業資料	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領解説算数編（平成29年6月文部科学省） ・算数教育学概論（片桐重男、平成24年東洋館出版） ・その他、歴史的なものや発展的のものを必要に応じて紹介する。 							
	評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
		到達目標1	10%		15%		5%	
		到達目標2	10%		15%		5%	
		到達目標3			20%			
		到達目標4	5%		5%	5%	5%	
	到達目標5							
（自由記述欄） 評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のことを、毎時間の「課題確認シート（調べたことを書き込む有）」の評価やまとめテストを総合的に評価し、その到達度に応じて、A A (90~100点)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、F (59点以下) で評価する。 ・なお、授業に取り組む姿勢や試験結果によっては、再試を行うこともある。 							
評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。 							
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後やオフィスアワーで相談を受ける。 ・期末試験（まとめテスト）の返却については、授業で提示します。 							
科目に定める必要事項	内容の基準としては「学習指導要領」であるが、その深い部分や発展的な内容、活用できる分野まで扱う。							
学生へのメッセージ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・長年にわたる教育現場における様々な経験を活かし、小学校での算数の教育について講義を行います。 ・自分が小学校や幼稚園の教諭になったときのことをイメージして積極的に授業に臨むこと。 ・遠隔授業になる場合もあります。その場合は、「オンデマンド授業」として、moodle上に読み物や動画の学修資料を用意し、それに対する課題シートに解答・回答し、提出することになります。 							
ナバナン	SPU-3-03-030							

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AS240373	教科特講（算数Ⅱ）		三 宮 知 恭					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 専攻科 初等教育専攻		1年次	後期	2			
授業概要	算数科学習内容の深い理解を進める上で必要となる数学的な考え方、全領域の基本事項の確認と「数量関係」「図形」「データの活用」「割合・比」の指導内容の体系を含めて深く理解する。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	小学校算数の目標や内容を理解している。内容を用語や図式を使って表現できる。					○	
	2	算数の学習内容の深い理解（なぜそうなるのか、どのように発展するか）を理解している。		○				
	3	算数の学習内容についてその歴史的な考え方の流れなど自分で調べて、まとめることができる。						○
	4	算数の考え方を日常生活に生かしたり、問題解決に生かすことができる。				○		
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	後期の目標の確認、前期まとめテストの解説から深く理解をする。実習中の算数教育に関する課題について考える。	前期のまとめテストの内容を再確認し、理解を深める。(1h)					
	2	・円について、さまざまな性質を理解する。 円に関する角度について ルーローの三角形など定副曲線について	本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	3	数と計算や図形などの学習内容から派生したちょっとした工夫や知識を紹介する。 ・ユークリッドの互除法 ・ハトメ返し ・メビウスの輪	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	4	・立体図形を「展開図とのりしろ」「教具の一つジオシェイプス」を使って、学ぶ。 ・体積・表面積の理解を深める。 アルキメデスの墓に刻まれた図形の意味を解明する。	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	5	・動いた後の面積や斜線的面積など図形の応用問題を解けるようになろう。 ただ解くだけでなく、教える場合も意識しながら解法を考える。	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	6	・万能マスをつくろう 立体の体積の活用として、いろいろな容量（体積）が図ることのできるマス（容器）を考える。 ・単位の考え方について理解を深める。	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	7	・三角定規の不思議 ・ハチの巣はなぜ、正六角形か ・同周囲の最大面積の図形は何か を数学的に解明する。	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	8	・データの活用 資料の整理 目的に合わせてどのようなデータを集め、どのように表せばよいかを考え、方法を学ぶ。(目的に合わせたグラフ) ・統計の「ウソ」にだまされないようにする。	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	9	「起こりうるすべて場合」の見つけ方（書き出し方） 生活の場面で、すべての場合を書き出して、説明する場面を想定し、考え方を身に付ける。	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	10	単位量あたり・比を使って考える ・割合や比の考え方を生活の中の問題に利用して解決する。	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	11	測定1「高さの求め方を考えよう（図形内容）」の方法を考える	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	12	測定2「高さを実際に測ってみよう」 自分で考えた方法で、他の人と協働して計る。(図るのは個人毎の方法) その方法と結果を説明する。	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					

授業計画	13	ともなって変わる2つの量（関数の考え方につなげる）の活用について学修する	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	14	プログラミング学習について（筋道を立てて考える） 実際に使われているプログラミング学習の「算数」での活用を体験する。 「多角形の内角の和」	前時の学修内容を返却・解説されたワークシートを使い、理解を深める。 本時に学修した内容を学修資料で振り返る。(1h)					
	15	まとめ 1年間「算数」の復習 確認や発展課題を考える	これまでのワークシートを見直し、理解を深めてくる。(1h)					
履修条件や関連する科目等	初等教育科で「算数」を履修しておくことが望ましい							
教科書	特になし							
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領解説算数編（平成29年6月文部科学省） ・算数教育概論（片桐重男、平成24年東洋館出版） ・その他、歴史的なものや発展的なものを必要に応じて紹介する。 							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1		10%		15%		5%	
	到達目標2		10%		15%		5%	
	到達目標3				20%			
	到達目標4		5%		5%	5%	5%	
	到達目標5							
自由記述欄	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のことを、毎時間の「課題確認シート（調べたことを書き込む有）」の評価やまとめテストを総合的に評価し、その到達度に応じて、AA(90~100点)、A(80~89点)、B(70~79点)、C(60~69点)、F(59点以下)で評価する。 ・なお、授業に取り組む姿勢や試験結果によっては、再試を行うこともある。 							
評価基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後やオフィスアワーで相談を受ける。 ・期末試験の返却については、授業で提示します。 							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	内容の基準としては「学習指導要領」であるが、その深い部分や発展的な内容まで扱う。							
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・長年にわたる教育現場における様々な経験を活かし、小学校での算数の教育について講義を行います。 ・自分が小学校や幼稚園の教諭になったときのことをイメージして積極的に授業に臨むこと。 ・遠隔授業になる場合もあります。その場合は、「オンデマンド授業」として、moodle上に読み物や動画の学修資料を用意し、それに対する課題シートに解答・回答し、提出することになります。 							
ナカソグ	SUP-3-04-030							

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名				
T5AS240393	指導法特論（算数）		三 宮 知 恭				
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数		
<専門科目>	[24] 専攻科 初等教育専攻		1年次	前期	2		
授業概要	算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法や構成力、授業を行う実践力を身に付ける。						
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力
到達目標	1	学習指導要領に示された算数科の目標や内容を理解する。		○			
	2	基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計及び授業実践を行う方法を身に付ける。				○	
	3	授業の構成や実践力をつけるために先行実践を調べ、模倣しながら体得していくことができる。					○
	4	自分の考えた指導案を音声・動き・板書など含めて、表現できる。					○
	5						
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間				
	1	算数科学習指導要領の変遷の歴史、目標及び内容について理解する。ICT機器活用の一環として「ロイロノート」の活用方法を理解し、ログインできるようにする	学修資料から学習指導要領「算数」の総則を中心に、ねらいや学習の目的等変遷など歴史的なことも含めて確認する。(1h)				
	2	大分スタンダードの授業作りと学習指導案（本時案）の作成の仕方	「学習指導案」や「構造的な板書」の作成について理解を深め、自分の決めた単元の「学習指導案」の作成にむけた計画を立てる。(1h)				
	3	算数科（A領域「数と計算」：低学年）目標及び内容の理解、教科書研究	「構造的な板書」について理解する。授業の例を参考に教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
	4	算数科（A領域「数と計算」：低学年）学習指導案作成、板書計画、教材教具・ワークシート等の作成	友だちの考えも参考にして「板書指導案」を改善する。新しい教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
	5	算数科（A領域「数と計算」：低学年）教材作成等準備、模擬授業、模擬授業の評価	友だちの考えも参考にして「板書指導案」を改善する。新しい教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
	6	算数科（B領域「図形」：高学年）目標及び内容の理解、教科書研究	友だちの考えも参考にして「板書指導案」を改善する。新しい教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
	7	算数科（B領域「図形」：高学年）学習指導案作成、板書計画、教材教具・ワークシート等の作成	友だちの考えも参考にして「板書指導案」を改善する。新しい教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
	8	算数科（B領域「図形」：高学年）教材作成等準備、模擬授業、模擬授業の評価	友だちの考えも参考にして「板書指導案」を改善する。新しい教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
	9	算数科（C領域「変化と関係」：中学年）目標及び内容の理解、教科書研究	友だちの考えも参考にして「板書指導案」を改善する。新しい教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
	10	算数科（C領域「変化と関係」：中学年）学習指導案作成、板書計画、教材教具・ワークシート等の作成	友だちの考えも参考にして「板書指導案」を改善する。新しい教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
	11	算数科（C領域「変化と関係」：高学年）教材作成等準備、模擬授業、模擬授業の評価	友だちの考えも参考にして「板書指導案」を改善する。新しい教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
	12	算数科（C領域「変化と関係」：高学年）目標及び内容の理解、教科書研究	友だちの考えも参考にして「板書指導案」を改善する。新しい教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
	13	算数科（D領域「データの活用」：中学年）学習指導案作成、板書計画、教材教具・ワークシート等の作成	友だちの考えも参考にして「板書指導案」を改善する。新しい教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
	14	算数科（D領域「データの活用」：高学年）教材作成等準備、模擬授業、模擬授業の評価	友だちの考えも参考にして「板書指導案」を改善する。新しい教材の「板書指導案」を考える。(1h)				
15	まとめ・模擬授業の改善案作成	自分の選んだ単元の「学習指導案」を完成させる。本時を選び「板書案（計画）」を作成し、合わせて提出する。(4h)					

履修条件や関連する科目等	特になし							
教科書	小学校学習指導要領解説 算数編（平成29年7月 文部科学省） 小学校算数教科書（啓林館）全学年全巻を購入しておく方が望ましい。							
参考資料	必要に応じて印刷または情報提供する							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1				20%		5%	
	到達目標 2				20%		5%	
	到達目標 3				20%			
	到達目標 4				20%	10%		
自由記述欄	毎時間の授業での「板書計画案」の作成や、模擬授業の相互評価の得点を積み上げていく。 ・学修の到達度に応じて、A A (90~100点)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、F (59点以下) で評価する。なお、授業に取り組む姿勢や試験結果によっては、再試を行うこともある。							
	評価基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	・オフィスアワー ・授業時間後随時 ・作成提出した「板書計画案」については、次の時間に利用して、全員でその計画案で授業を行ったり、修正案を考える。 ・学期に1つの単元の「学習指導案」を作成する。実習にむけて、全員で共有する。							
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）							
学生へのメッセージ	・長年にわたる教育現場における様々な経験を活かし、算数科における教育目標、授業計画等について講義を行います。 ・自分が小学校や幼稚園の教諭になったときのことをイメージして積極的に授業に臨むこと。 ・遠隔授業になる場合もあります。その場合は、「オンデマンド授業」として、moodle上に読み物や動画の学修資料を用意し、それに対する課題シートに解答・回答し、提出することになります。 ・授業の中や模擬授業を行う上で「ICT機器」の活用を実践的に学びます。「タブレット」かノートPCを持参してください。 大分県のおよそ全ての学校で使用しているアプリ「ロイロノート」を使用します。							
ナパ/ナグ	SUP-3-11-030							

科目コード	科目名		担当教員名					
T5AS240422	修了論文		三宮知恭					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[23] 専攻科 初等教育専攻		2年次	通年	4			
授業概要	学士課程教育に相当する4年間の学修成果の総まとめ科目として、教育における通信機器（ICT機器）の活用や情報教育、科学教育に関する内容を研究テーマとし、小学校算数科教育、小学校算数科指導法などの実践研究を通して修了論文を作成する科目である。授業は基本的には各自の進捗状況をグループディスカッション形式で報告し、すすめ方は（1）先行研究を批判的に分析することによって各自のテーマを設定し、（2）そのテーマに対して適切な調査・分析方法を適用して結論を導き、（3）修了論文としてまとめる、の3つの段階とする。各段階で必要となる専門的な知識・技術については全体または個別に指導することとする。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	ICT機器の活用や情報教育に関係することなど教育学についての問題に対する研究テーマを設定し、それを小学校算数科教育、小学校算数科指導法などの教育実践を通して、検証していくように計画することができる			○			
	2	研究テーマに対して、先行研究や教育学の他の分野との関連を踏まえつつ、目的や意義について説明することができる						○
	3	研究テーマに対して適切な分析、研究方法を用いて結論を導き、修了論文にまとめることができる				○		
	4	研究の遂行において、研究グループとの協力や調査協力者等への配慮をしながら、得られた結果を責任をもって公表することができる					○	
5								
授業計画	No.	授業内容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	各自の研究テーマ及び研究計画の担当教員への説明	先行研究や参考文献の調査・学修					
	2	各自の研究テーマに対する研究目的・研究の動機等の検討	先行研究や参考文献の調査・学修					
	3	各自の研究テーマに対する研究内容の検討	先行研究や参考文献の調査・学修					
	4	各自の研究テーマに対する研究方法・調査方法の検討	先行研究や参考文献の調査・学修					
	5	各自の研究テーマに対する研究に対する検証方法の検討	先行研究や参考文献の調査・学修 収集データの分析方法の学修					
	6	修了論文第1回中間発表会（構想発表会）	履修計画書の作成・発表準備					
	7	各自の研究テーマ及び研究計画の決定	研究構想の修正・改善・具体化					
	8	各自の研究テーマに関する先行研究・参考文献のまとめ	研究構想の修正・改善・具体化					
	9	各自の研究テーマに対する各種アセスメントによる実態調査	アセスメント方法やアンケート等の文面の作成					
	10	各自の研究テーマに対する調査・教育実践の内容作成	アセスメント・アンケート等の実施に向けた準備					
	11	各自の研究テーマに対する調査・教育実践の内容検討	アセスメント・アンケート等の実施に向けた準備					
	12	各自の研究テーマに対する調査・教育実践（授業等）の実施（1）	実施・実践に向けた準備					
	13	各自の研究テーマに対する調査・教育実践（授業等）の実施（2）	実施・実践に向けた準備					
	14	各自の研究テーマに対する調査・教育実践（授業等）の検証（1）	実践等の準備及び実践記録の作成					
	15	各自の研究テーマに対する調査・教育実践（授業等）の検証（2）	実践記録の分析					
	16	各自の研究結果の検討と考察（1）	実践記録の分析から考察を整理					
	17	各自の研究結果の検討と考察（2）	考察につながる分析結果の表示方法や考察内容の見直し・整理					
	18	修了論文第2回中間発表会（研究経過発表会）	研究経過の発表準備（ゼミ内）					
	19	各自の研究結果のまとめ「修了論文」の作成にむけて（1）	中間発表での修正にかかわる今後の研究について整理する					
	20	各自の研究結果のまとめ「修了論文」の作成にむけて（2）	再調査・実践についてまとめる					
	21	各自の研究結果のまとめ「修了論文」の作成（1）	修了論文としての項目を考える					
	22	各自の研究結果のまとめ「修了論文」の作成（2）	論の展開や資料の見直し					
	23	各自の研究結果のまとめ「修了論文」草稿の作成	項目と内容の下書き					
	24	各自の研究結果のまとめ「修了論文」草稿（案）の完成、提出	修正して「草稿」の完成を図る					
	25	各自の研究結果のまとめ「修了論文」の修正（先生方からの意見を基に）	修正意見を取り入れ、書き直す					
	26	各自の研究結果のまとめ「修了論文」草稿の完成、提出	再修正して、ほぼ完成した原稿を作成する					
	27	修了論文発表会に向けたプレゼンテーションの作成	論文を基にプレゼンテーションを考えてくる					
28	修了論文発表会に向けたプレゼンテーションの検討及び修正	プレゼンテーションの修正						

計画	29	修了論文発表会に向けたプレゼンテーションの「レジュメ」や補助資料等の作成	プレゼンテーションの修正及び補助資料の作成					
	30	修了論文発表会	プレゼンテーション（補助資料）の準備					
履修条件や関連する科目等	「修了論文」の履修年度に修了見込であること							
テキスト	教科書は特に指定しない。各自のテーマに基づいて先行研究や理論研究に関する文献検索を行い、文献購読を行う。							
参考文献	参考文献としては、論文作成に係る次の文献とする。 ○論文の教室 レポートから卒論まで（日本放送出版協会；1,120円（税別）） ○大学生のためのレポート・論文術（講談社現代新書；720円（税別）） 各自の研究テーマにあわせて、各自で調べて用意する。また、ゼミの中で研究の概要や課題を聞きながら、教員より紹介する。							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1				10%			
	到達目標 2				10%		10%	
	到達目標 3				20%	20%		
	到達目標 4				20%	10%		
	到達目標 5							
自由記述欄	学位レポート及び修了論文：60% 調査・研究に対する姿勢及び意欲：20% 発表会におけるプレゼンテーション及び表現技術：20% 再試は実施しない。							
評価基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相対及び学習成果のフィードバック	進捗状況や相談については授業時間に限らず日常的に打合せを行う。 質問やディスカッション等はmoodleコース内に設置された掲示板やメールでも受け付ける。							
科目に定める必要事項	学士課程教育に相当する4年間の学修成果の総まとめ科目							
学生へのメッセージ	教育現場で授業を行ったり、指導したりしてきたことを活かし、授業では、毎回、事前に調べた内容や考察の結果をスライドで発表しながら研究進捗や方向性について議論します。各自のノートPCを必ず持参してください。(ICT活用) 授業前に十分な準備（事前研究・参考文献の理解等）をしてディスカッションに備えましょう。							
ナカゲ	GTW-4-01-030							

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AS240378	教育職特論		高 橋 俊 二					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 専攻科 初等教育専攻		1年次	後期	2			
授業概要	現在社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教員の在り方を身に付ける。(グループディスカッション) 遠隔で授業を実施する場合、授業時間の初めにGメールで課題を送付、授業終了前にGメールで課題提出。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解することができる。		○				
	2	教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解することができる。		○				
	3	教員の職務内容や全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解することができる。			○			
	4	学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家と連携・分担する必要性について理解することができる。			○			
5								
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	教職の意義：(1) 教育の理念と目的	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	2	教職の意義：(2) 教職の専門性・服務規律	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	3	教職の職務内容 (1) 学校組織体制と職務 (芯の通った学校組織・チーム)	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	4	教職の職務内容 (2) 学習指導要領と教育課程	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	5	教職の職務内容 (3) 教科指導 (学力と体力の向上)	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	6	教職の職務内容 (4) 道徳教育と道徳の時間の指導 (豊かな心の育成)	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	7	教職の職務内容 (5) 生徒指導と教育相談 (いじめ、不登校、虐待等)	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	8	教職の職務内容 (6) 特別支援教育 (インクルーシブ教育)	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	9	教職の職務内容 (7) 学級経営 (子どもの居場所づくり、児童の実態把握)	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	10	教職の職務内容 (8) 安心・安全な学校 (危機管理)	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	11	教職の職務内容 (9) 学校の研究・研修の充実	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	12	教職の職務内容 (10) ティームティーチング、習熟度別学習	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	13	教育マイスター研修の成果発表と協議	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	14	現在社会における教育や教職の課題	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
15	講義のまとめ：「今、求められている教師像」	配布したプリントを熟読する(0.5h)						
履修条件や関連する科目等	教職実践演習 (幼・小) と同時に履修すること。							
テキスト	適宜プリントを配付する。							
参考書	小学校学習指導要領解説 総則編 (平成29年7月 文部科学省) 155円+税							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1	20%		10%		5%	
	到達目標 2	20%		10%		5%	
	到達目標 3	10%				5%	
	到達目標 4	10%				5%	
	到達目標 5						
(自由記述欄) 評価方法	期末試験：60% 授業態度：20% 課題レポート：20% 再試験を実施する。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	・試験等の答案の返却については、授業の中で指示する。 ・オフィスアワー火曜日・金曜日の16:20～ 研究室1号館3階133						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	小学校・幼稚園一種免許取得のための必修科目：教育の基本理論に関する科目						
学生へのメッセージ	○教育マイスター研修での事例を全員で検討し解決策を提案していくことになる。討議には主体的に参加し、建設的で根拠のある意見を述べるように心がけること。 小学校教員・指導主事の経験を活かし、授業では、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教員の在り方を学びます。						
ナカソグ	PED-4-01-030						

科目コード	科目名		担当教員名					
T5AS240383	教育課程特論		高橋俊二					
科目区分	対象学科	対象学年	開講期間	単位数				
<専門科目>	[24] 専攻科 初等教育専攻	1年次	後期	2				
授業概要	小学校学習指導要領・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基準として各学校（園）において編成される教育課程について、その役割・機能・意義や、学校（園）の教育実践に即した編成の方法を理解するとともに、各学校（園）の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。（グループディスカッション）遠隔で授業を実施する場合、授業時間の初めにGメールで課題を送付、授業終了前にGメールで課題提出。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	教育課程について、その役割・機能・意義等を理解する。		○	○			
	2	学校（園）の教育実践に即した教育課程の編成の方法を理解するとともに、各学校（園）の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。		○		○		
	3	過去から現代に至るまでの教育課程の変遷を理解する。						○
	4							
	5							
授業計画	No.	授業内容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	教育課程の意義について	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	2	教育課程に関する法制（1）教育課程とその基準について	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	3	教育課程に関する法制（2）教育課程に関する法律について	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	4	教育課程の原則（1）教育課程編成の主体について	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	5	教育課程の原則（2）教育課程編成の原則について	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	6	教育課程実施における「確かな学力、豊かな心、健やかな体力」について	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	7	教育課程実施における「育成を目指す資質・能力」について	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	8	カリキュラム・マネジメントの充実について	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	9	各学校の教育目標と教育課程の編成について	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	10	教育課程の変遷1～戦後の社会と教育課程	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	11	教育課程の変遷2～系統性重視、教育の現代化と教育課程	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	12	教育課程の変遷3～人間性重視、新学力観と教育課程	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	13	教育課程の変遷4～生きる力、確かな学力、活用能力と教育課程	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	14	教育課程における「履修原理」について	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
	15	教育課程編成における共通事項について・まとめ	配布したプリントを熟読する(0.5h)					
履修条件や関連する科目等	特になし							
（テキスト）教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省） ・幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省） ・幼保連携型認定こども園、保育要領解説（平成30年3月 内閣府 文部科学省 厚生労働省） 							
（参考資料）授業資料	新しい時代の教育課程（有斐閣アルマ）、授業中に適宜資料を配布する。							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標1	20%		10%		10%	
	到達目標2	20%		10%		10%	
	到達目標3	20%					
	到達目標4						
	到達目標5						
（自由記述欄）評価方法	期末試験（60%）、期末レポート（20%）、授業態度・提出物（20%）再試験を実施する。						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下)で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー火曜日・金曜日の16:20～ 研究室1号館3階133 ・試験の解答等の返却は授業の中で指示する。 						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	幼稚園・小学校教員一種免許取得のための必修科目：教育の基本理論に関する科目						
学生へのメッセージ	教育課程は学校教育の中軸となるため、しっかり受講し、積極的に学んでほしい。小学校教員・指導主事の経験を活かし、授業では、教育課程について、その役割・機能・意義や、学校（園）の教育実践に即した編成の方法や各学校（園）の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を学びます。						
ナレッジ	DID-3-01-030						

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
T5AS240392	指導法特論（社会）				高 橋 俊 二			
科目区分	対象学科			対象学年	開講期間	単位数		
<専門科目>	[24] 専攻科 初等教育専攻			1年次	前期	2		
授業概要	社会科の目標と内容を具体的な実践と関連させて、学習指導案を作成し、模擬授業をする。(プレゼンテーション・グループディスカッション) 遠隔で授業を実施する場合、授業時間の初めにGメールで課題を送付、授業終了前にGメールで課題提出。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	小学校社会科の各学年の目標と内容を理解し、問題解決型の学習方法を理解する。		○				
	2	学習指導要領に示された社会科の目標や内容を理解する。		○				
	3	基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。				○		
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	社会科の目標と内容	小学校学習指導要領解説社会編の指定されたページを熟読 (0.5h)					
	2	社会科の目標と指導内容の特色	小学校学習指導要領解説社会編の指定されたページを熟読 (0.5h)					
	3	公民的資質の基礎について	小学校学習指導要領解説社会編の指定されたページを熟読 (0.5h)					
	4	第3学年の目標と内容 (指導案作成と教材研究)	指導案作成と教材研究 (1h)					
	5	第3学年の具体的実践 (模擬授業と情報機器の活用)	指導案作成と教材研究 (1h)					
	6	第4学年の目標と内容 (指導案作成と教材研究)	指導案作成と教材研究 (1h)					
	7	第4学年の具体的実践 (模擬授業と情報機器の活用)	指導案作成と教材研究 (1h)					
	8	第5学年の目標と内容 (指導案作成と教材研究)	指導案作成と教材研究 (1h)					
	9	第5学年の具体的実践 (模擬授業と情報機器の活用)	指導案作成と教材研究 (1h)					
	10	第6学年の目標と内容 (指導案作成と教材研究)	指導案作成と教材研究 (1h)					
	11	第6学年の具体的実践 (模擬授業と情報機器の活用)	小学校学習指導要領解説社会編の指定されたページを熟読 (0.5h)					
	12	社会科の提示された資料の学習方法	小学校学習指導要領解説社会編の指定されたページを熟読 (0.5h)					
	13	歴史学習を楽しくさせる方法	小学校学習指導要領解説社会編の指定されたページを熟読 (0.5h)					
	14	社会科における教材と授業評価の視点	小学校学習指導要領解説社会編の指定されたページを熟読 (0.5h)					
15	社会科における授業評価と授業改善	小学校学習指導要領解説社会編の指定されたページを熟読 (0.5h)						
履修条件や関連する科目等	特になし							
教科書	小学校学習指導要領解説 社会編 (平成29年7月 文部科学省) 142円+税							
参考資料	小学校社会教科書、指導書							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1		20%				10%	
	到達目標 2		10%				10%	
	到達目標 3					50%		
	到達目標 4							
	到達目標 5							

評価方法 (自由記述欄)	・学習指導案の作成や模擬授業に積極的に取り組む姿を高く評価する。 ・再試を実施する。
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。
学習相談及び学習成果のフィードバック	・オフィスアワー 火曜日・金曜日の16:20～ 研究室1号館3階133 ・試験の返却方法は授業の中で指示する。
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	小学校教員一種免許取得のための選択教科：各教科の指導法（視聴覚機器及び教材の活用を含む）
学生へのメッセージ その他	常に、社会事象（政治・経済等）に関心を持って授業に臨むことを期待する。 小学校教員・指導主事の経験を活かし、授業では、社会科の目標と内容を具体的な実践と関連させて、学習指導案を作成の仕方や模擬授業の在り方を学びます。
ナカリガ	SUP-3-10-030

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
T5AS240413	教職実践演習（幼・小）				高 橋 俊 二			
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[23] 専攻科 初等教育専攻		2年次	後期	2			
授業概要	教職課程の他の授業科目及び教職課程外で身に付けた資質能力が、教員として最低限の資質として形成されたことを確認するものであり、30日間の「教育マイスター研修」を通してその定着を図り、教職生活がより円滑にスタートできることをめざす。遠隔で授業を実施する場合、授業時間の初めにGメールで課題を送付、授業終了前にGメールで課題提出。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	教育に対する使命感や情熱を持ち、教員としての倫理観・規範意識を持つことができる。		○				
	2	教員としての職責や義務を自覚し、組織の一員としてその職務を遂行できる資質を養うことができる。					○	
	3	子ども理解や学級経営についての実践力をつけることができる。					○	
	4	教職としての専門的な知識をつけ、授業の実践力を身に付けることができる。					○	
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	教育実習の目的と意義 1	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	2	教育実習の目的と意義 2	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	3	教育実習の準備と心得 1	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	4	教育実習の準備と心得 2	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	5	小学校教諭に求められる資質能力	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	6	幼稚園教諭に求められる資質能力	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	7	実習日誌について	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	8	幼稚園幼児とは～発達段階と成長	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	9	小学校児童とは～発達段階と成長	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	10	学習指導案の作成	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	11	保育案の作成 1	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	12	保育案の作成 2	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	13	事後指導 1～実習日誌について	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	14	事後指導 2～学習指導案について	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
	15	事後指導 3～自己評価について	配付したプリントを熟読する (0.5h)					
履修条件や関連する科目等	履修年度に専攻科初等教育専攻を修了見込であること。							
教科書 (テキスト)	幼稚園教育要領（平成29年3月文部科学省） 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月文部科学省）							
参考書 (授業資料)	授業の中で適宜配付する。							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取り組み姿勢	その他	
	到達目標 1					10%	20%	
	到達目標 2					10%	20%	
	到達目標 3						20%	
	到達目標 4						20%	
	到達目標 5							
評価方法 (自由記述欄)	学習指導案及び保育案の作成：80% 授業態度：20% 再試験は実施しない。							

評価 基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。
学習 相談及び 学習 成果の フィード バック	・オフィスアワー火曜日・金曜日16:20～ 研究室1号館3階133 ・学習指導案・保育案の返却は授業の中で指示する。
法令等 に定め られた 授業 科目に 関する 必要な 事項	小学校免許・幼稚園免許：「教育実習に関する科目」
学生 への メッセ ージ その他	○専攻科の学生であるというプライドを持って授業に臨むこと。 ○学習指導案及び保育案の作成を重視している。主体的に参加することを期待する。 ○本授業に対する取り組み姿勢が重要なポイントなので、留意しておくこと。 小学校教員・指導主事の経験を活かし、授業では、教職課程の他の授業科目及び教職課程外で身に付けた資質能力が、教員として最低限の資質として形成されることを学びます。
ナカ リガ グ	PTS-4-01-030

科目コード	科 目 名				担 当 教 員 名			
T5AS240374	教科特講 (社会)				高 橋 俊 二			
科目区分	対象学科			対象学年	開講期間	単位数		
<専門科目>	[24] 専攻科 初等教育専攻			1年次	後期	2		
授業概要	社会科における「社会的な見方・考え方」を地理的分野、歴史的分野、公民的分野から理解し、魅力ある授業を構想する。(グループディスカッション・プレゼンテーション) 遠隔で授業を実施する場合、授業時間の初めにGメールで課題を送付、授業終了前にGメールで課題提出。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	社会科の目標・内容構造を理解する。		○				
	2	社会科における「社会的な見方・考え方」を理解する。		○				
	3	社会科の魅力ある授業を構想する。		○	○			
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	社会科の目標と各学年の目標	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	2	社会科の内容構成	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	3	社会科において育成を目指す資質・能力	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	4	第3学年「自分たちの市を中心とした地域の社会生活」	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	5	第4学年「自分たちの県を中心とした地域の社会生活」	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	6	第5学年「我が国の国土の様子や特色」	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	7	第5学年「我が国の産業の様子や特色」	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	8	第6学年「我が国の政治の働き」	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	9	第6学年「我が国の歴史」	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	10	第6学年「国際社会における我が国の役割」	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	11	魅力ある歴史的分野の授業の構想	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	12	魅力ある地理的分野の授業の構想	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	13	魅力ある公民的分野の授業の構想	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	14	社会科におけるICTの活用	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
	15	社会科の教材開発や資料収集・まとめ	配布したプリントを熟読 (0.5h)					
履修条件や関連する科目等	特になし							
(テキスト)	小学校学習指導要領解説 社会編 (平成29年7月 文部科学省) 142円+税							
(参考書)	小学校社会教科書、指導書							
評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発 表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1		20%		10%		5%	
	到達目標 2		20%		10%		5%	
	到達目標 3		15%		10%		5%	
	到達目標 4							
	到達目標 5							
(自由記述欄)	・ 期末試験55%、課題30%、授業の取り組み姿勢15%							

基準等	・ 学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。
学習相談及び学習成果のフィードバック	・ オフィスアワーで学習相談をする。オフィスアワー火曜日・金曜日の16:20～ 研究室1号館3階133 ・ 試験や課題プリントの返却方法は授業の中で指示する。
法令等に定められた授業科目に定める必要事項	幼・小一種免許状取得のための選択教科
学生へのメッセージその他	常に社会事象(政治・経済・歴史等)に関心を持って授業に臨むことを期待する。 小学校教員・指導主事の経験を活かし、授業では、社会科で学ぶべきことを具体的な実践と関連付けて行う。
ナカリガ	SUP-3-19-030

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AS240369	教科特講（国語Ⅰ）		古 川 元 視					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 専攻科 初等教育専攻		1年次	後期	2			
授業概要	小学校国語科学習指導要領について学ぶ。また、小学校国語科の教材に関連した専門的知識・技能を身に付ける。アクティブ・ラーニング型授業を行う。遠隔授業をmoodle（期間を決めて）やZOOM（オンタイムで）を用いて実施する場合は、事前にメールで連絡する。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
到達目標	1	小学校国語科の学習指導要領の目標や内容を理解することができる。		○				
	2	小学校国語科の内容に即した知識シートを作成することができる。						○
	3							
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	小学校学習指導要領の目次を理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション)	学習指導要領解説国語編を読む。 (復習) 1時間					
	2	小学校学習指導要領の国語科を概観する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション)	学習指導要領解説国語編を読む。 (復習) 1時間					
	3	小学校学習指導要領解説国語科の目標を理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	学習指導要領解説国語編を読む。 (復習) 1時間					
	4	小学校学習指導要領国語科の内容を理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	タブレットを活用した「話すこと・聞くこと」の学習指導案を分析する。(予習) 1時間					
	5	タブレットを活用した「話すこと・聞くこと」の学習指導案を基に、指導上の留意点を理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	「書くこと」の教材分析をする。 (予習) 1時間					
	6	タブレットを活用した「書くこと」の知識シートを作成する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	タブレットを活用した「書くこと」の知識シートを作成する。(復習) 1時間					
	7	タブレットを活用した「書くこと」の知識シートを修正する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	タブレットを活用した「書くこと」の知識シートを作成する。(復習) 1時間					
	8	タブレットを活用した「書くこと」の知識シートを完成する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	タブレットを活用した「書くこと」の知識シートを完成する。(復習) 1時間					
	9	タブレットを活用した「話すこと・聞くこと」の教材分析をする。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	タブレットを活用した「話すこと・聞くこと」の教材分析をする。(復習) 1時間					
	10	タブレットを活用した「話すこと・聞くこと」の知識シートを作成する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	タブレットを活用した「話すこと・聞くこと」の知識シートを作成する。(復習) 1時間					
	11	タブレットを活用した「話すこと・聞くこと」の知識シートを完成する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	タブレットを活用した「話すこと・聞くこと」の知識シートを完成する。(復習) 1時間					
	12	タブレットを活用した「読むこと」(説明文)の教材分析をする。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	タブレットを活用した「読むこと」の知識シートを作成する。(復習) 1時間					
	13	説明文の教材や並行読書、言語活動について理解する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	並行読書の本を探す。(復習) 1時間					
	14	説明文の知識シートを作成する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	タブレットを活用した説明文の知識シートを完成する。(復習) 2時間					
15	小学校学習指導要領解説編国語科を確認して、今までのワークシートなどを振り返り、身に付いた力を確認する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	身に付いた力をポートフォリオで振り返る。						
履修条件や関連する科目等	特になし							
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領（平成29年度告示）文部科学省，217円+税 ・小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編（文部科学省：東洋館出版社）平成30年，162円+税 ・読書活動でアクティブに読む力を育てる！小学校国語科言語活動アイデア&ワーク（井上一郎編/古川元視著：明治図書），2015年，2,260円+税 ・国語科教育の基礎・基本 教える・学ぶ方 ポイント&シート 1読むこと，2「書くこと，話すこと・聞くこと（井上一郎著：明治図書），2021年，2,360円+税 							

(授業資料) 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングをサポートする! 学校図書館活用プロジェクト掲示ポスター &ポイントシート事典（井上一郎編著/古川元視著：明治図書），2017年，2,860円+税 ・思考力・読解力アップの新空間! 学校図書館改造プロジェクト 図書館フル活用の教科別授業アイデア20（井上一郎編著：明治図書）2013年，2,400円+税 ・誰もがつけたい説明力（井上一郎著：明治図書），2005年，2,160円+税 ・読解力を育てる! 小学校国語 定番教材の発問モデル 物語文編/説明文編（井上一郎編著：明治図書）2015年，2,460円+税 								
	評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
		到達目標 1				10%	10%	10%	
		到達目標 2				30%	30%	10%	
		到達目標 3							
到達目標 4									
到達目標 5									
(自由記述欄) 評価方法	再試は行いません。								
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。								
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相談はオフィスアワー（詳細には後日連絡する）で受ける。(24号館5階509研究室) ・課題，レポートは授業の中で返却する。 								
科目に定める必要事項	法令等に定められた授業 教科に関する専門的事項 必修科目								
学生へのメッセージ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科はすべての教科の基盤となる重要な教科であり，育成すべき言語能力をよく理解するとともに，自らもその言語能力を習得するように努めること。 ・教育現場で国語の授業を行ったり，指導したりしてきたことを活かし，授業では具体的な事例を交えて講義をする。 ・遅刻，授業中の私語，飲食，携帯メール等は一切認めない。 ・欠席は必ず連絡すること。 ・提出物や資料等は必ず提出して保管すること。 ・この授業科目は，遠隔授業の可能性があるので，ノートパソコンを使用するので，ノートパソコンを持ってくること。 								
ナバワグ	SUP-3-01-030								

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AS240391	指導法特論 (国語)		古 川 元 視					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 専攻科 初等教育専攻		1年次	前期	2			
授業概要	小学校国語科の「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材分析を行い、模擬授業や模擬授業の振り返りを行うことで、国語科の授業の指導法を学ぶ。その際に、ICTを活用した授業をつくる。							
到達目標	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	「書くこと」の教材分析とタブレットを活用した学習指導案を作成し、模擬授業と振り返りを行うことができる。		○				
	2	「読むこと」の教材分析とタブレットを活用した本時案を作成することができる。			○			
	3	「話すこと・聞くこと」の教材分析とタブレットを活用した本時案を作成することができる。						○
	4							
	5							
授業計画	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	「書くこと」の学習指導案を分析して、学習指導案の書き方を確認する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション)	「書くこと」の指導案を読む。(予習) 1時間					
	2	「書くこと」の学習指導案の書き方を確認する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション)	「書くこと」の教材分析をする。 (復習) 1時間					
	3	「書くこと」の教材分析をする。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	「書くこと」も副教材を探す。 (予習) 1時間					
	4	「書くこと」の副教材を探す。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	副教材を分析する。(予習) 1時間					
	5	副教材を分析する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション)	「書くこと」の学習指導案を書く。 (復習) 1時間					
	6	タブレットを活用した「書くこと」の学習指導案の授業過程までを書く。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	「書くこと」の学習指導案を書く。 (復習) 1時間					
	7	タブレットを活用した「書くこと」の学習指導案の授業過程までを協議して、修正する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション)	「書くこと」の学習指導案を書く。 (復習) 1時間					
	8	タブレットを活用した「書くこと」の学習指導案の本時案を協議して、修正する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	「書くこと」の学習指導案を書く。 (復習) 1時間					
	9	タブレットを活用した「書くこと」の学習指導案の本時案の発問を考える。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション)	「書くこと」の発問を修正する。 (復習) 1時間					
	10	タブレットを活用した「書くこと」の学習指導案の発問を完成する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション)	「書くこと」の模擬授業の練習をする。 (予習) 1時間					
	11	タブレットを活用した「書くこと」の模擬授業の練習をする。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション)	「書くこと」の模擬授業の練習をする。 (予習) 1時間					
	12	タブレットを活用した「書くこと」の模擬授業と振り返りをする。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	「読むこと」の本時案を作成する。 (予習) 1時間					
	13	タブレットを活用した「読むこと」の本時案を作成する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	「話すこと・聞くこと」の本時案を作成する。 (予習) 2時間					
	14	タブレットを活用した「話すこと・聞くこと」の本時案を作成する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション、反転授業)	「話すこと・聞くこと」の本時案を完成する。 (復習) 2時間					
15	今までを振り返り、身に付いた力を確認する。 (アクティブ・ラーニング：グループディスカッション)	ポートフォリオを完成する。(復習) 1時間						
履修条件や関連する科目等	国語科指導法							
(テキスト)教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領 (平成29年度告示) 文部科学省, 217円+税 ・小学校学習指導要領 (平成29年度告示) 解説 国語編 (文部科学省：東洋館出版社) 平成30年, 162円+税 ・読書活動でアクティブに読む力を育てる! 小学校国語科言語活動アイデア&ワーク (井上一郎編/古川元視著：明治図書), 2015年, 2,260円+税 ・国語科教育の基礎・基本 教え方・学び方 ポイント&シート 1 読むこと (井上一郎著：明治図書) 2021年, 2,360円+税 							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法		期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取組み姿勢	その他
	到達目標 1				15%	15%	10%	
	到達目標 2				10%	10%	10%	
	到達目標 3				10%	10%	10%	
	到達目標 4							
	到達目標 5							
(自由記述欄) 評価方法								
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。							
学習相談及び学習成果のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相談はオフィスパワー (詳細には後日連絡する) で受ける。(24号館 5階509研究室) ・課題, レポートは授業の中で返却する。 							
科目に定める必要事項	小学校免許：幼稚園免許「教科に関する科目」							
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科はすべての教科の基盤となる重要な教科であり、育成すべき言語能力をよく理解するとともに、自らもその言語能力を習得するように努めること。 ・教育現場で国語の授業を行ったり、指導したりしてきたことを活かし、授業では具体的な事例を交えて講義をする。 ・授業中の私語, 飲食, 携帯メール等は一切認めない。 ・欠席は必ず連絡すること。 ・提出物や資料等は必ず提出して保管すること。 ・遠隔授業の性能がある。 ・ノートパソコンは、ロイロノートで使用するので、持ってくること。 							
ナカワ	SUP-3-09-030							

科目コード	科 目 名		担 当 教 員 名					
T5AS240411	介護等体験実習指導		松 崎 優					
科目区分	対象学科		対象学年	開講期間	単位数			
<専門科目>	[24] 専攻科 初等教育専攻		1年次	通年	1			
授業概要	介護等体験とは、小中学校教諭の普通免許状の授与を受けようとする者が、「個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識」を深めることにより、義務教育に従事する教員としての資質向上と義務教育の一層の充実を期するために、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの人々との交流等の体験をすることである。本講義では、この介護等体験の事前及び事後学習として、介護等体験の趣旨が達成されるよう、講義やグループワーク等を通じて基本的な知識や技能を学ぶ。なお、コロナ等の関係で対面授業が困難な場合は、Moodleでのオンライン授業で対応する。その場合は、グループワークができないので、オンライン上での質問対応等、別の方法で対応する。							
	No.	到達目標	教養 ※教養科目	専門力 ※専門科目	汎用力 思考力	汎用力 実行力	汎用力 表現力	汎用力 情報力
	1	介護等体験について、法令等に基づき理解をした上で、具体的に説明することができる。		○				
	2	特別支援学校における各障害種別の教育のありかたについて理解し、発表することができる。					○	
	3	社会福祉施設における障害者、高齢者等の介護・介助について理解し、発表することができる。				○		
	4							
5								
到達目標	No.	授 業 内 容	授業時間外の学修の内容と時間					
	1	本授業の概要説明と介護等体験申込書の作成	授業の復習 1h					
	2	介護等体験の意義	授業の復習 1h					
	3	社会福祉とは何か ～社会福祉制度の現状と課題	授業の復習 1h					
	4	社会福祉施設の概要 ～高齢者の施設、障がい者施設	授業の復習 1h					
	5	特別支援教育の概要～知的障害、情緒障害、肢体不自由、病弱～	授業の復習 1h					
	6	インクルーシブ教育システム・合理的配慮	授業の復習 1h 自宅学習ワークシートの作成 1h					
	7	(実習前指導) 社会福祉施設における介護等体験へ向けて (実習施設調べ)	授業の復習 1h と 実習準備 1h					
	8	(実習前指導) 社会福祉施設における介護等体験へ向けて (実習の心構え)	授業の復習 1h と 実習準備 1h					
	9	(直前指導) 社会福祉施設における介護等体験へ向けて (服装、髪型、諸注意)	授業の復習 1h と 実習準備 1h					
	10	(実習前指導・直前指導) 各障がい種別に応じた特別支援学校の教育と子どもとのかかわり方～知的障害、情緒障害～	授業の復習 1h					
	11	(実習前指導・直前指導) 各障がい種別に応じた特別支援学校の教育と子どもとのかかわり方～肢体不自由、病弱～	授業の復習 1h					
	12	(実習前指導・事後指導) 特別支援学校における介護等体験へ向けて (実習の心構え)・振り返り	授業の復習 1h					
	13	施設実習における介護等体験発表①	授業の復習 1h グループワークの発表の準備 1h					
	14	特別支援学校における介護等体験発表②	授業の復習 1h グループワークの発表の準備 1h					
15	介護等体験実習・介護等体験実習指導に関する全体のまとめ	授業の復習 1h						
履修条件や関連する科目等	介護体験実習を履修するためには、本講義を履修しなければならない。							
教科書	学外実習ハンドブック (小学校・介護等体験編)；実習費で徴収済み							
参考資料	特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア (ジエース教育新社；1,200円 (税別)) よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック第5版 (全国社会福祉協議会) 指定された社会福祉施設や特別支援学校のHPや関連情報を各自で見事前学習しておくことを望みます。 次に掲げる資料は文部科学省HPに公開しています。 ・特別支援学校 教育要領・学習指導要領 (平成29年告示) ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編 (幼稚園・小学部・中学部) 平成30年3月30日初版発行 開隆堂出版株式会社 343円+税							

評価方法とその割合	到達目標毎の評価方法	期末試験	小テスト	課題・レポート	発表	授業の取り組み姿勢	その他
	到達目標 1			30%		5%	
	到達目標 2			20%	8%	5%	
	到達目標 3			20%	7%	5%	
	到達目標 4						
	到達目標 5						
自由記述欄	ワークシートによる理解度の評価：45% 授業中の取り組み姿勢や態度：15% グループワーク及び発表内容の評価：15% 実習の振り返りシート：15% 自宅学習ワーク：10%						
基準等	・学習の到達度に応じて、AA(90-100点)、A(80-89点)、B(70-79点)、C(60-69点)、F(59点以下) で評価します。						
学習相談及び学習成果のフィードバック	○授業で使用するパワーポイントはムードルに上げていますので学修資料として活用してください。 ○課題シートは授業終了時に提出をもって出席と判断します。また、シートは、次の授業内で返却します。 ○授業で疑問に思ったことや質問等あれば相談に応じますので、積極的に質問してください。						
法令等に定められた授業科目に含まれる必要事項	小学校教員免許状取得必修：教科または教職に関する科目						
学生へのメッセージ	これからの時代を生きる子どもを育てる教師をめざす皆さんには、特別支援教育の理解、特別支援学校と社会福祉施設での体験は非常に大切な経験になります。特別支援学校で長年勤務した経験に基づく具体的な成功事例や失敗事例等を提示しながら、皆さんが将来活用できる知識や技能等を楽しく学べるように工夫します。 なお、コロナ等の関係で、対面授業が困難な場合は、moodleでの遠隔授業で対応します。また、グループワークの場合、遠隔での質問対応等別の方法で対応します。						
ナパシ	NED-3-01-030						